

HOKKAIDO UNIVERSITY CAMPUS SITES / 1991

北大構内の遺跡

平成2年度



北海道大学

北大構内の遺跡

HOKKAIDO UNIVERSITY CAMPUS SITES

9

平成2年度

北海道大学

目次

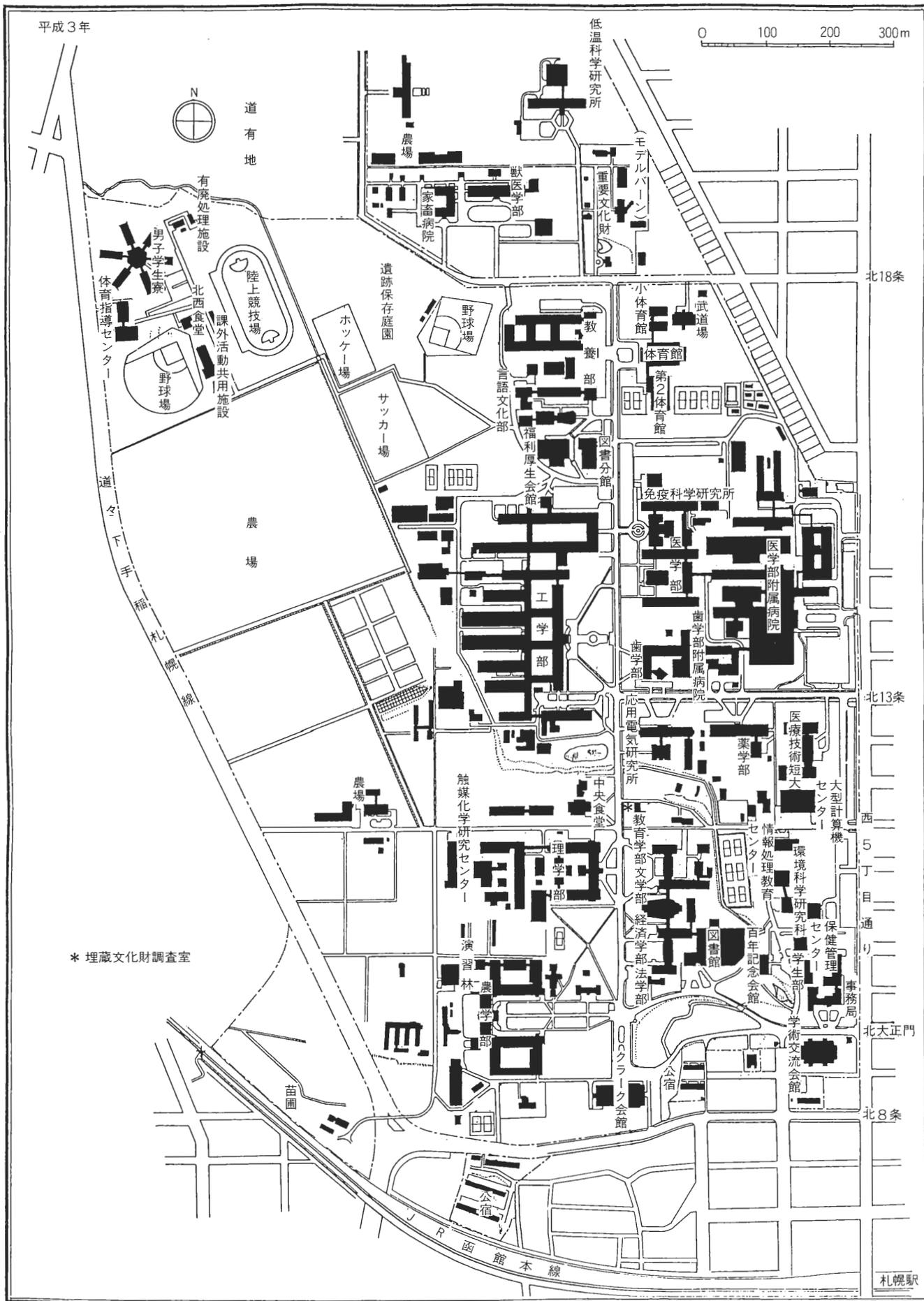
平成2年度事業報告

I-1 立会および予備調査など実施事業の報告	5	I-4 平成2年度に実施した予備調査	10
I-2 学外に対する活動	6	II-1 寄贈図書目録 1980年～1990年	16
I-3 工事立会による調査	6	あとがき	40

《図目次》

第1図 北海道大学構内施設配置図	4
第2図 北海道大学埋蔵文化財調査室展示ルーム	6
第3図 北海道大学構内配電線路（F304）改修工事	7
第4図 北海道大学構内道路補修その他工事	7
第5図 北海道大学札幌地区情報ネットワーク設備工事	7
第6図 北海道大学農学部附属牧場乳牛育成舎新築工事地点の試掘溝	9
第7図 北海道大学農学部附属牧場牧草地改良工事地点の地層	9
第8図 北海道大学農学部附属植物園旧庁舎給排水改修工事	9
第9図 北海道大学剣道場工事候補地試掘溝	9
第10図 北海道大学剣道場工事候補地試掘溝掘削地点	10
第11図 北海道大学南新川公務員宿舎付近地形図	12
第12図 北海道大学南新川公務員宿舎各試掘溝断面略図	12
第13図 北海道大学南新川公務員宿舎試掘溝削作業	14
第14図 北海道大学南新川公務員宿舎No.3 試掘溝で検出された文化層とみられる炭化物層	14
第15図 北海道大学南新川公務員宿舎の試掘で発見された噴砂の痕跡	14

第1図 北海道大学構内施設配置図



平成2年度事業報告

I-1 立会および予備調査など実施事業の報告

(1) 平成2年度に北大埋蔵文化財調査室が実施した屋外調査は、以下に示した7地区の工事立会、4地点の予備的試掘である。

《平成2年度に実施した工事立会》

工事名称 北海道大学埋蔵文化財調査室電話ケーブルルート変更工事

調査日時 平成2年4月19日～平成2年4月26日

作業地区 札幌団地埋蔵文化財調査室南側

調査面積 6.4㎡

工事名称 北海道大学構内配電線路(F304)改修工事

調査日時 平成2年10月23日～平成2年11月17日

作業地区 札幌団地言語文化部～課外活動共用施設

調査面積 565.76㎡

工事名称 北海道大学札幌地区情報ネットワーク設備工事

調査日時 平成2年10月29日～平成2年11月24日

作業地区 札幌団地獣医学部管理研究棟・獣医学部放射線棟・教養部N棟・教養部E棟・図書分館・工学部前・医学部中央研究棟・大型計算機センター

調査面積 534.34㎡

工事名称 北海道大学構内道路補修その他工事

調査日時 平成2年10月26日～平成2年11月15日

作業地区 札幌団地図書館本館前道路

調査面積 307.56㎡

工事名称 北海道大学歯学部他電話幹線改修工事

調査日時 平成2年11月17日～平成2年11月28日

作業地区 札幌団地薬草園・歯学部他

調査面積 5.7㎡

工事名称 北海道大学農学部附属植物園旧庁舎給排水改修工事

調査日時 平成2年12月3日～平成2年12月4日

作業地区 農学部附属植物園

調査面積 6.6㎡

工事名称 北海道大学教育学部テニスコート造成工事

調査日時 平成2年10月12日～平成2年12月7日

作業地区 札幌団地教育学部北側

調査面積 13.66㎡

《平成2年度の予備調査》

工事名称 北海道大学農学部附属牧場乳牛育成舎等新営その他工事

調査日時 平成2年6月27日

作業地区 日高管内静内町字御園111

農学部附属牧場

試掘面積 約6㎡

工事名称 北海道大学剣道場建設工事候補地

調査日時 平成2年9月17日～平成2年9月21日

作業地区 札幌団地現体育館東側本部管理地

試掘面積 70㎡

工事名称 北海道大学南新川公務員宿舎9号棟受水槽室新営その他工事

調査日時 平成2年11月5日

作業地区 札幌市北区北23条西13丁目1番地

南新川公務員宿舎駐車場

試掘面積 24㎡

工事名称 北海道大学教養部(仮設講義棟)新営工事

調査日時 平成2年11月6日

作業地区 札幌団地教養部S棟西側

試掘面積 34.8㎡

(2) 屋内作業ほか

これまでに構内で発掘採集された資料の整備作業を、継続実施している。とくに、土器については、石膏の充填作業を中心に、展示資料として展示・保管するための整備修復作業を行なった。

I-2 学外に対する活動

調査室収蔵資料が蓄積整備されてきたため、学外から資料の見学や研究についての問い合わせなどを含む交流活動が活発になってきている。この分野に関する主たる活動は次のとおりである。

- a：一般見学者 ……………238名
- b：研究を目的としての来室者……………64名
- c：各種研究機関からの問い合わせ……………40件
この中には、ハバロフスク博物館およびウラジオストック考古民族研究所より出土炭化種子同定の依頼が含まれている。
- d：山形県県立博物館より特別展に展示するため続縄文式土器ならびに「夷」文字土器の短期貸出し要請があった。
期間……平成2年8月より同年10月末まで
- e：北海道教育委員会文化課より本年12月に北海道庁ロビーにおいて実施する埋蔵文化財に関する短期展示に使用する目的で、構内遺跡出土種子の走査電顕写真の提供依頼があり作成提供。
- f：6月20日サハリン州立博物館副館長シュービン氏来室。サハリンと北海道の先史時代文化の比較研究に関する小集會を開催。
- g：カナダ・トロント大学 G. Crawford 助教授 6月25日に来室。調査室収蔵の出土炭化種子の研究のため8月まで滞在。

第2図 埋蔵文化財調査室展示ルーム



I-3 工事立会による調査

1：北海道大学埋蔵文化財調査室電話ケーブルルート変更工事

調査日時 平成2年4月19日～平成2年4月26日

現状付近は擦文時代竪穴分布域に近接するので、立会調査を行なった。

[調査結果]

しかし、掘削部分では、その溝底面までコンクリート塊を含む廃棄土の堆積がつつき、原堆積土層は確認出来なかった。以上の所見に基づき、工事は差し支えないと判断された。

2：北海道大学構内配電線路（F304）改修工事

調査日時 平成2年10月23日～平成2年11月17日

言語文化部から課外活動共用施設にかけて、道路南側の路肩を主として延長800mにわたり、幅70cm、深さ70cmの埋設溝掘削が行なわれた。

[調査結果]

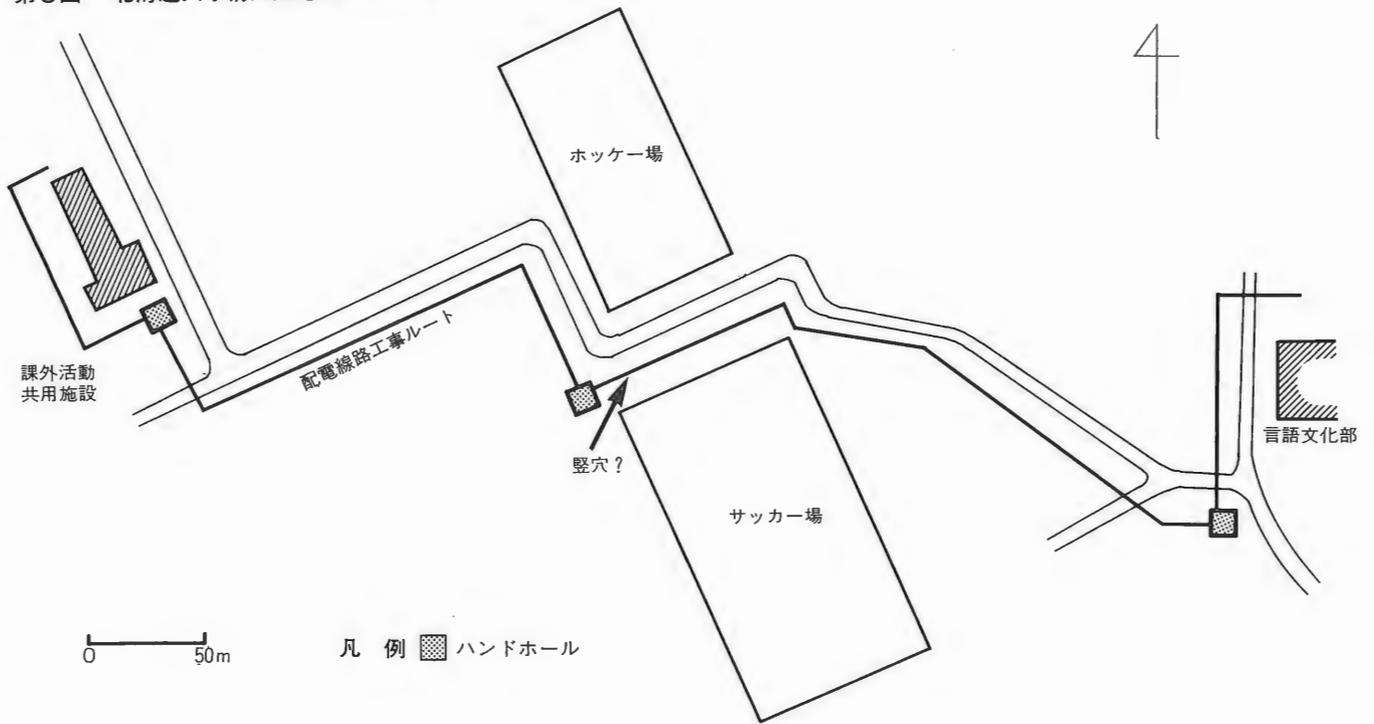
立会調査の結果、その殆どの掘削部分は、道路構築時の再堆積土で、埋蔵文化財の包含を予測させるような原地層は確認出来なかった。ただ、サッカー場に隣接した掘削部分の溝底のごく一部に、黒色の腐植質土層が観察できる箇所があり（第3図矢印部分）、これが竪穴住居の埋積土である可能性が考えられた。しかし、この部分の掘削溝は送電線のための埋設であり、もしこれが竪穴住居であったとしてもその構造や文化層を破壊する状況にはないので、工事進行に支障はないと判断された。ただし、将来、この部分に道路の再構築や大型の共同溝などの設置が計画される場合には、発掘調査を実施しておかなければならないであろう。

3：北海道大学札幌地区情報ネットワーク設備工事

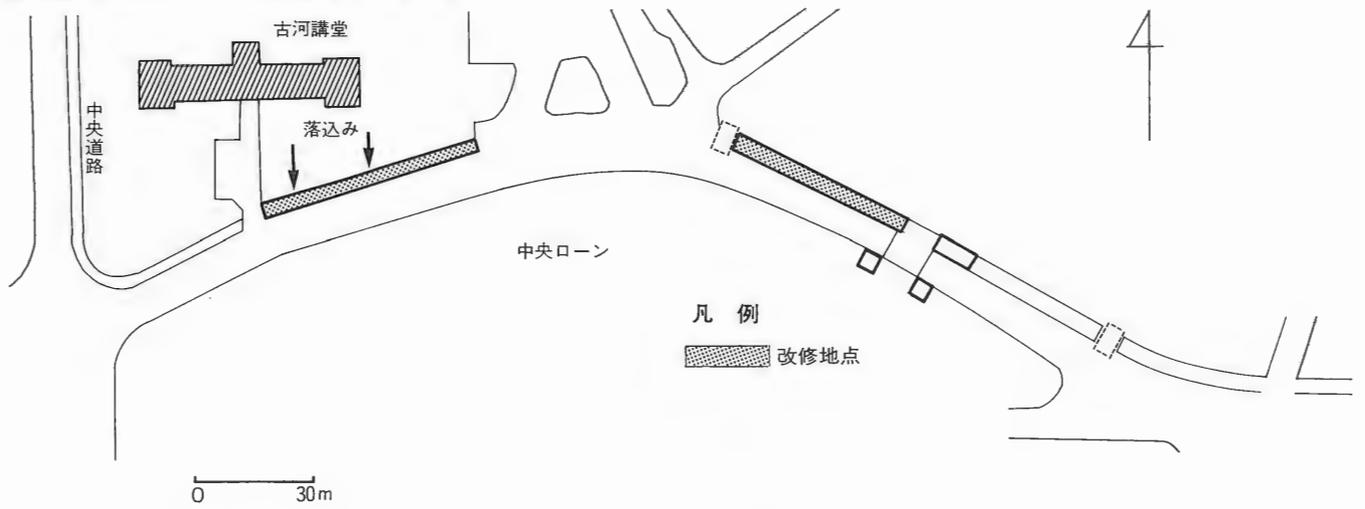
調査日時 平成2年10月29日～平成2年11月24日

第5図に示したようなハインス埋設溝が、獣医学部南西側、教養部N棟西側、医学部中央研究棟西側、大型計算機センター前に掘削されたので立会調査を実施した。

第3図 北海道大学構内配電線路(F304)改修工事



第4図 北海道大学構内道路補修その他工事



第5図 情報ネットワーク設備工事



[調査結果]

掘削溝は幅60cm、深さ70cmである。今回掘削された部分は、全て溝底まで廃棄土層、または埋め土であった。また、獣医学部敷地内に2箇所設けられたハンドホールにおいては、現地表下80cm～108cmから青灰色の粘土層となり、きわめて湿潤な状況下で堆積生成した地層であることが明らかである。教養部N棟および言語文化部の西側にそれぞれ掘削されたハンドホールも、ほぼ同様の堆積状況である。通常、札幌団地においては、こうした性格の粘土層は、遺跡ののる微高地の基底に見られるものである。したがって今回のハynes関連工事区域内の掘削は、埋蔵文化財保護の観点から見て格別の支障はないものと判断された。

4：北海道大学構内道路補修その他工事

調査日時 平成2年10月26日～平成2年11月15日

図書館本館前の基幹道路補修に関係する工事である。立会調査を実施したのは、中央ローンにかかる橋梁の石積擁壁改修部分、図書館本館前に残っていたニレ風倒木の抜根作業部分、古河講堂前の道路側溝改修部分である。

[調査結果]

立会調査の結果、橋梁石積擁壁改修部分は全て二次的な埋積土であり、また隣接したニレ風倒木の抜根地点は、河川性のソーティングの良い黄褐色砂層であって工事の進行は何ら差し支えないと判断された。

古河講堂前の側溝は以前から設置されていたものの改修で、旧側溝を除去して幅220cm、深さ45cm～50cmの整地が実施された。この際、第4図矢印に示した地点に、黒色腐植土の落ち込みが観察されている。西側のものは、側溝中に東西の幅320cmで見られ、現在の道路面より-80cmから認められる。東側のものは側溝中に幅5.5mにわたっており、現在の道路面より-65cmから認められた。ただし、道路面自体は構築時の盛り土上に作られているので、隣接する地表面より30cm～35cmほど高い。もちろん、この地域は、北大として古くから開発されていた部分であるから、原地表がどのあたりに位置していたかは明確でない。しかし、古河講堂前の芝生面が旧地表面から余り極端な削剝を受けていないとすれば、これらの土層中

にプライマリーな文化財の包含層準が残っている可能性が高い。また、その立地状況はサクシュコトニ川の流路に面する微高地である。こうした点から考えて、この落ち込みが単なる自然のくぼみではなく、擦文時代の竪穴住居に関連するものである可能性が十分にある。ただし、立会時と若干のテスト掘りの際には、文化遺物は全く検出されていない。

今回の工事部分は、ほぼ道路の盛り土部分の掘削であるし、その上部に恒久的な建造物が建設されるわけでもないので、作業を続行しても差し支えないと判断した。しかし、今後この地域に大きな掘削を伴うような工事が計画される場合には、事前に正式な発掘調査を行なう必要がある。

5：北海道大学歯学部他電話幹線改修工事

調査日時 平成2年11月17日～平成2年11月28日

札幌団地葉草園から歯学部にかけての地域の長さ900cm、幅50cm、深さ70cmの掘削工事である。

[調査結果]

立会の結果は、工区全てが埋め土部分であり、かつ既設ケーブルが埋設されているので、文化財保護上には何ら問題がないと結論された。

6：北海道大学農学部附属植物園旧庁舎給排水改修工事

調査日時 平成2年12月3日～平成2年12月4日

植物園旧庁舎から現在の庁舎にかけて給排水管理設のために深さ100cmの掘削溝工事が行なわれるので、立会調査を実施した。

[調査結果]

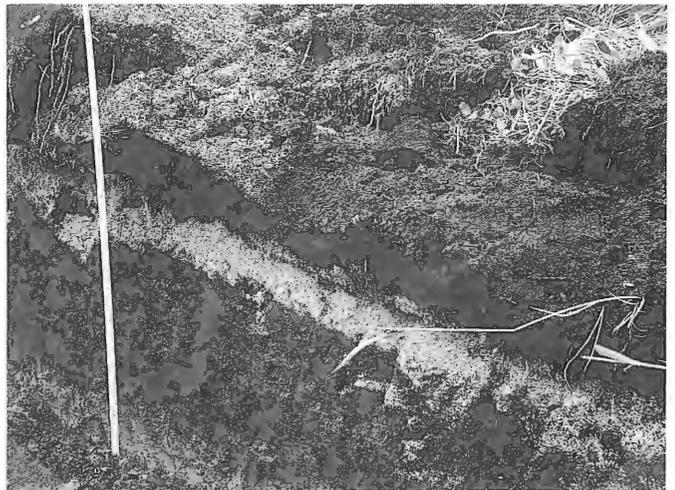
掘削溝の観察では、河川起源の砂層が連続しており、文化財を包蔵する地層の確認は出来なかった。また、ここで観察された砂層は人為的に持ち込まれた可能性がある。

植物園内は、旧地形面をよく残す部分があり、小河川の流路に沿って遺跡が広がっていることが知られている。地表から観察出来る擦文時代の竪穴住居のくぼみも、少なくとも3地点確認されている。したがって、将来とも園内工事の際には、十分な予備調査を実施する必要がある。

第6図 農学部附属牧場乳牛育成舎新築工事地点の試掘溝



第7図 農学部附属牧場牧草地改良工事地点の地層



第8図 農学部附属植物園旧庁舎給排水改修工事



第9図 剣道場工事候補地試掘溝



7：北海道大学教育学部テニスコート造成工事

調査日時 平成2年10月12日～平成2年12月7日

教育学部の北側に接してテニスコートの造成が計画され、同学部より連絡があったので、この地域は埋蔵文化財包蔵地であるため、地表より50cm以上深く掘削しないように協議をおこなった。ただし、コートに巡らすフェンス支柱部分は、構造上若干深めに掘削する必要が生じたため、施行時に立会調査を実施した。

[調査結果]

立会の結果、どの支柱部分の掘削も埋め土部分だけで予定深度に達したため、今回の工事では埋蔵文化財保護上格別の問題の生じないことが確認された。

この地域は、地表より-80cm以深には破壊を免れた埋蔵文化財の包含層が残されており、今後の工事には格別の留意が必要である。

I-4 平成2年度に実施した予備調査

1：北海道大学農学部附属牧場乳牛育成舎等新営その他工事

作業地区 日高管内静内郡静内町字御園111

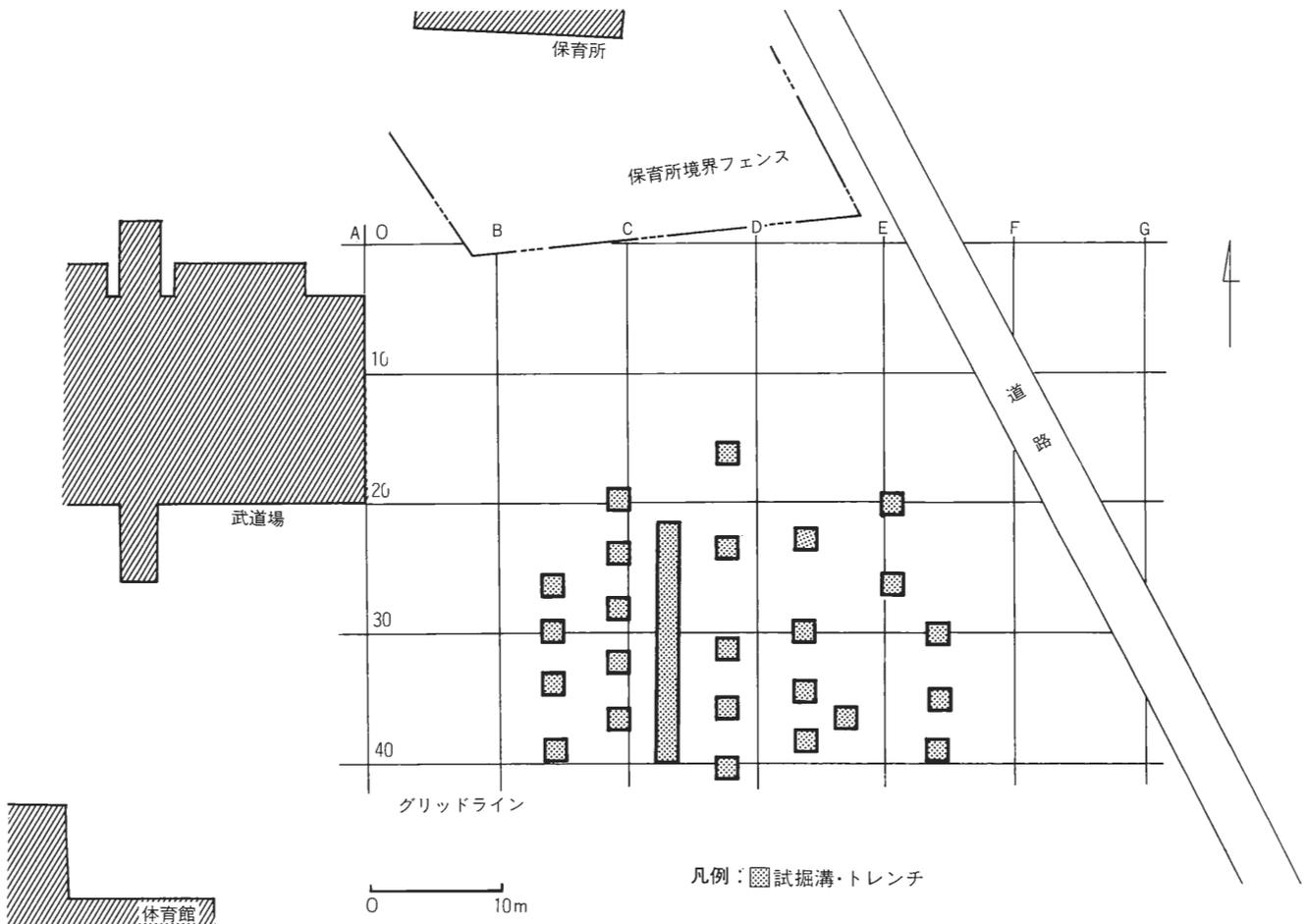
農学部附属牧場

調査日時 平成2年6月27日

附属牧場は、静内川の支流ケパウ川（1：25,000 国土地理院発行地形図では日高目名川となっている）の低位氾濫原と、それを取り巻く丘陵に位置している。氾濫原上には牧場庁舎などの設備があり、これと道路を隔てた東側草地内に、乳牛育成舎の新設が計画された。また、同年次に、氾濫原に接する丘陵地帯の草地の新規造成および改良事業が実施されることになった。

これまで、静内川本流域からは、縄文時代から近世までの各種の遺跡が多数報告されている。だが、支流のケパウ川筋については、遺跡分布に関する情報が皆無であった。それで、今回の工事に先行して

第10図 北海道大学剣道場工事候補地試掘溝掘削地点



牧場敷地内の埋蔵文化財の分布調査を実施、計画進行の基礎資料とすることにした。

試掘調査地点には、草地造成地域の丘陵上で谷沿いの比較的平坦な地点が3箇所選ばれた。各々の地点に、長さ200cm、幅100cm、深さ100cmの試掘溝を掘削し、文化層の有無を調べるために、土層の堆積状況や人為遺物の痕跡などにつき精査をおこなった。

[調査結果]

試掘の結果、どの地点においても、地表から30cmまでが黒色森林土壌、その下部に厚さ15cmで浮石質の樽前B火山灰が堆積、さらに下位には安山岩質の風化土壌が1mほど続き、やがて角礫の多い層に移行することが確認された。また、これら各層中に炭化物層や文化遺跡の挟在は認められなかった。

試掘作業の後、丘陵一帯の地表露出部分で遺物の確認調査を実施したが、人工遺物は全く検出出来なかった。ただ、小河川に隣接した自然堤防上に、ガラス瓶の破片が散乱している地点が2箇所注意されたにとどまる。採集されたガラスの性状や瓶の形態から、これらの瓶はごく最近のものではないと思われたが、少なくとも明治期にさかのぼる特徴はみられない。したがって、ガラス瓶の破片は、この地域に入植した開拓民か、初期の林業関係者の残したものと考えたい。

乳牛育成舎新設予定地点は前述したとおり、ケパウ川の氾濫原上である。この地点に手掘りで試掘溝を設定し、土層の状況を観察した。その結果、30cm程の厚さの壤土下には樽前B火山灰層が堆積しておらず、ただちに河川礫が現われることが確認された。こうした状況から判断すると、氾濫原一帯には近代以前の文化財に関連するような遺構や遺物の存在する可能性が全くないと思われる。

2：北海道大学剣道場建設工事候補地

作業地区 札幌団地現体育館東側本部管理地

調査日時 平成2年9月17日～平成2年9月21日

札幌団地内に剣道場の新設計画案が持たれたが、その建設地点候補地の一つとして、現体育館東側の林地が最有力となった。だが、この地域は、かつて昭和61年6月に発掘調査した学生部体育館建設予定地（現第2体育館）の縄文時代遺跡⁽¹⁾から、北北東方向に約50mしかはなれていない。また、双方の地形面の比較してもよく連続しており、ほとんど差

が認められない。したがって、この地域を建設地点候補として確定する以前に、あらかじめ埋蔵文化財の有無を調査した。

[調査結果]

現地は、昭和27年頃には公務員住宅が立ち並んでおり、その後これが除去されて雑木林地となった地域である。調査は武道場の一側壁を基準ラインとして10mグリッドを設定。その中の建物外郭予定線内に2m×2mのテストピット24個、2m×20mのトレンチ1個を設定して実施した(第10図)。これらのテストピットやトレンチは、立木を避けて設定したので、必ずしも規則的な配列になっていない。

試掘調査の結果、その殆どのテストピットに昭和20年代と見られる塵芥処理穴と河川礫やレンガあるいはコンクリートなどの建造物基礎の残骸が見られた。また、当初予想していた状態と異なり、原地表の人為的な削剝が著しい。通常、この地域においては、表層に発達する黒色腐植土層下半部とその下の褐色粘土層中に広がる薄い炭化物層から擦文時代の遺物が検出されるのである。だが、この人為的削剝のために表層の黒色腐植土層が逸失している部分が多かった。また、その下層の褐色粘土層中にも文化遺物の包含を意味する炭化物層は見られなかった。したがって、この予定区画地内には、埋蔵文化財を一次的に包蔵する層準は欠如しているものと判断される。

3：北海道大学南新川公務員宿舎9号棟受水槽室新営その他工事

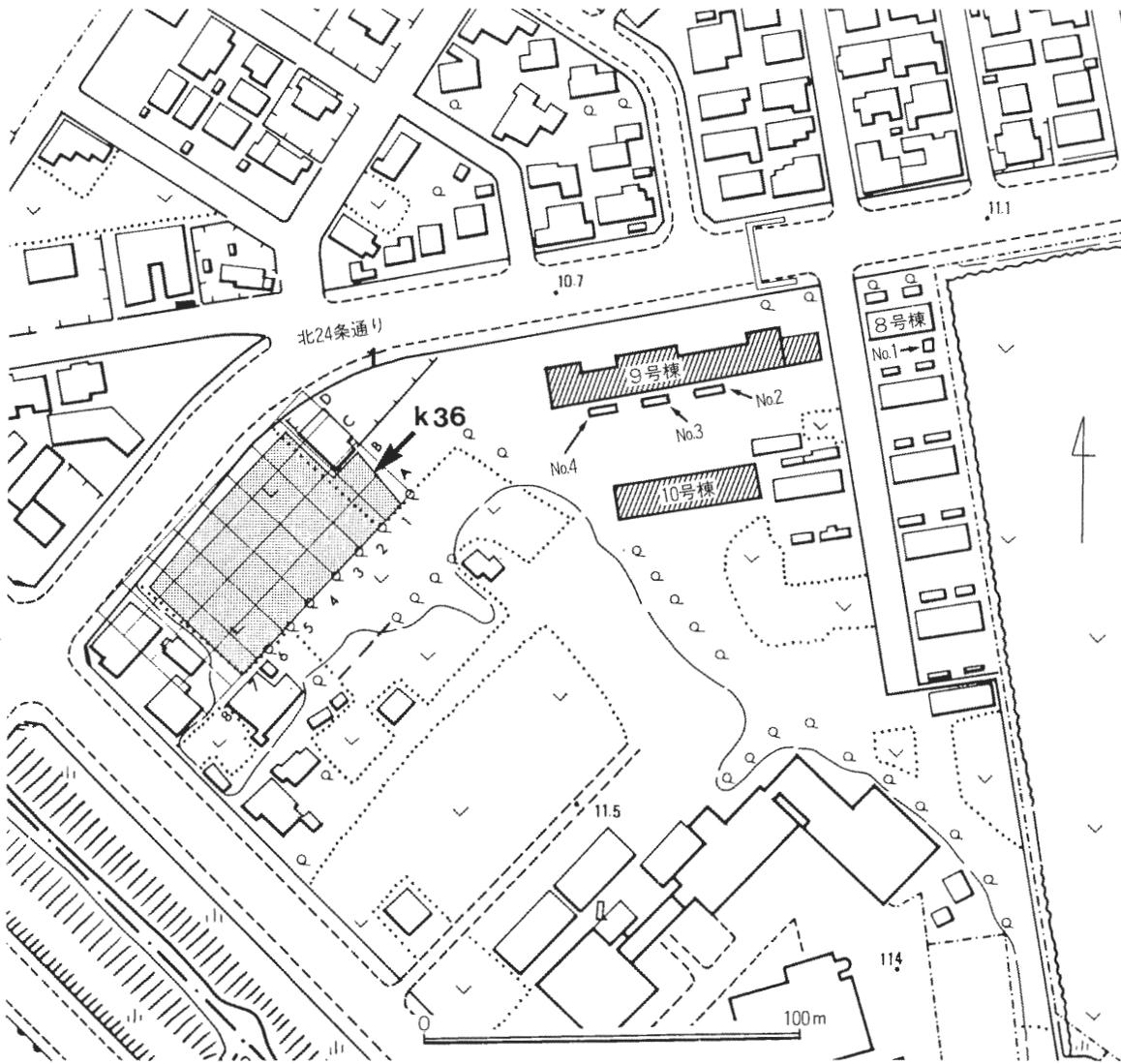
作業地区 札幌市北区北23条西13丁目1番地
南新川公務員宿舎駐車場

調査日時 平成2年11月5日

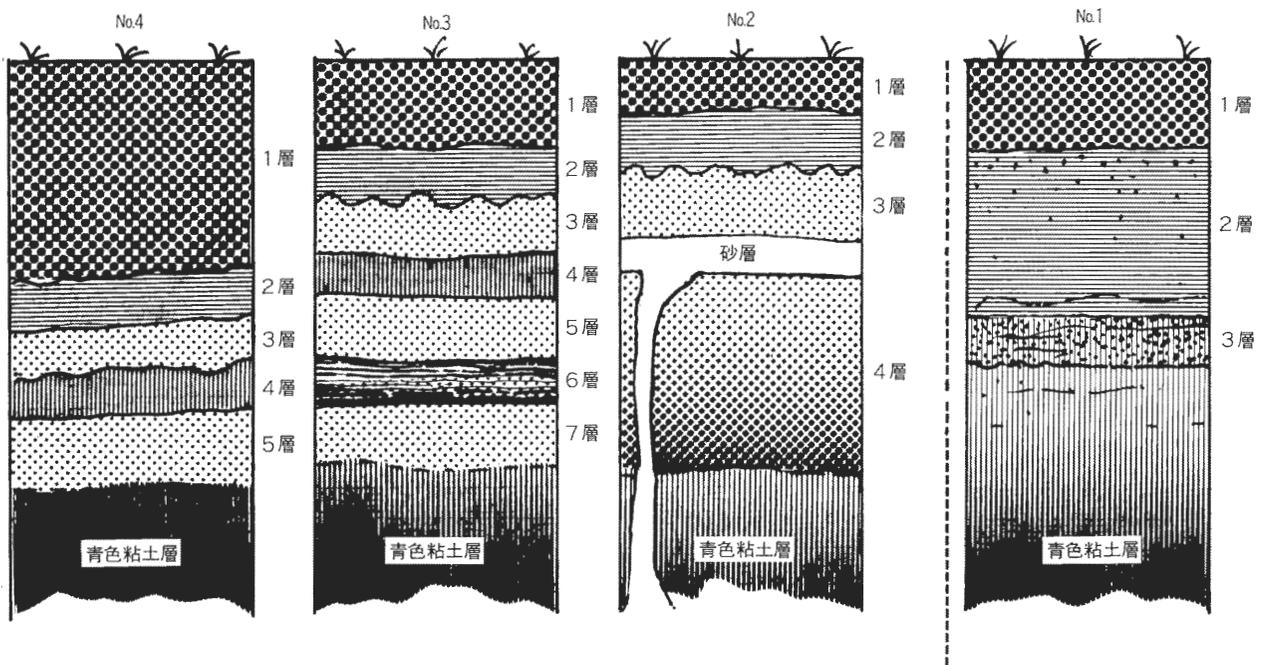
上記地区の9号棟北側に受水槽の新営と同棟の南側10号棟との間に排水桝設置と簡易舗装が計画された。この地域は、札幌市埋蔵文化財台帳⁽²⁾に登録されているK36遺跡およびK120遺跡に隣接している。また、昭和61年5月から6月には、9号棟西側に接するK36遺跡の一部である北23条西14丁目地点が、札幌市教育委員会の文化財担当者によって発掘調査され、5軒の擦文時代竪穴住居と2基の焼土が検出されている⁽³⁾。

工事が予定されている宿舎敷地は、前述したようにその西側に接してK36遺跡がある。遺跡と宿舎敷

第11図 北海道大学南新川公務員宿舎付近地形図（札幌市埋蔵文化財センター作成図を改変修整使用）



第12図 南新川公務員宿舎各試掘溝断面略図



地の間は、約1mの高さの段丘崖の痕跡らしきものがみられ、前者の方が若干高い地形面となっている。段丘崖らしきものの裾はきわめて湿潤で、降雨時には排水路状を呈していた。

こうした地形から考えて、当初、工事予定地区は河川浸食の影響が強く、遺跡の存在する可能性が少なくと見られていた(第11図)。

[調査結果]

現地踏査の結果、9号棟北側に予定された受水槽の新営地点には、すでに給排水管などが埋設されており、試掘の必要がないと判断された。それで8号棟南側に150cm×150cmの試掘溝を1箇所(No.1)、9号棟南側西寄りに150cm×300cmのものを3箇所(No.2~No.4)設定し、掘削した(第11図)。

No.1試掘溝は、地表から第1層が腐植質を多く含む黒色土30cm、その下第2層が50cmほどの黒灰色粘土層、第3層は褐鉄鉱の多い褐色粘土層となっている(第12図)。各層準全体を通じきわめて湿潤な環境下に堆積生成したもので、文化層が挟在した痕跡は見られない。

No.2試掘溝は、地表より第1層が灰褐色火山灰層で約30cmの厚さを持つ。人為的に埋め土として運ばれてきたものであろう。第2層は、かつての地表を示すと思われる灰色がかった黒褐色土層が10cm~20cmほど。この層の下半部は不規則に変化しながら第3層に移行する。第3層は褐鉄鉱粒を含む灰褐色粘土層が約30cm、その下に層厚の一定しない砂層が広がっている。この砂層は、第4層の黒褐色土層とその下の茶褐色粘土層さらに最下位の還元性の青色粘土層を貫き、これらより下位の地層から噴出してきたものなので、層序番号からは除外しておくことにしたい(第12図No.2)。第4層は黒褐色土層で、40cmほどの厚さを持つ。その下端は、褐鉄鉱を含む黄褐色粘土層に漸移し、最下位の青粘土層にかわる。

No.3試掘溝は、基本的にはNo.2試掘溝と同様な堆積状況を見せる。地表より第1層が2次的に持ち込まれた灰褐色火山灰層30cm~40cm、第2層はかつての表層を示すと思われる灰色がかった黒褐色土層で15cm~20cm。第3層は約10cmほどの漸移層で、灰褐色粘土層。ところどころに高師小僧に似た褐鉄鉱のブロックを含んでいる。この層の下に第4層として

分類された炭化物片の比較的多い10cm~15cm程の厚さで黒褐色土層がくる。第5層は厚さ20cmほどの灰褐色粘土層。この層の下端から炭化物片の多い黒褐色の第6層が13cm~15cmの厚さで続く。この第6層は上端と下端に炭化物が多く見られ、中央部に少ない傾向がみられるので、2層に分割出来る可能性が残される。この層の下部は灰褐色で褐鉄鉱の多く含まれる粘土層が25cmほど続き、還元性の青色粘土層にかわっていく。

No.4試掘溝は表層から第1層が80cm~90cmの積み土。その下に第2層の約20cmの黒褐色土層。第3層は15ほどの灰褐色粘土層で、褐鉄鉱粒を含んでいる。第4層は腐植質の多い黒色土層が10cm。その下に灰褐色の粘土層が30cmほど続き、次に還元性の青色粘土層に変化する。

はなれているNo.1試掘溝は別として、No.2、No.3、No.4の試掘溝においては、第1~第4層および最深部に発達する青色粘土層の各層は、この地域に共通の層準として分類が可能である。しかし、No.3試掘溝に見られた炭化物の多く含まれる第6層は、他の試掘溝では欠落していた。この試掘溝では他の地点に比べて第4層の発達が悪く、また、それ以下の層準レベルが他の試掘溝より若干浅い所に位置していることが判明した。おそらく、No.4試掘溝とこの地域に隣接する比高1mの段丘崖の間に埋没した小河川が存在し、No.3試掘溝はその自然堤防部分に位置しているものと考えられる。No.2試掘溝からNo.1試掘溝にかけては、緩やかに低湿地に向けて傾斜していくのであろう。

北大構内と隣接する札幌市の北区一帯には、西暦4世紀頃からの遺跡が分布しているが、その大部分は、ここに見られたような小河川の自然堤防上に集落跡の見出されることが多い。札幌市埋蔵文化財センターが平成2年度に発掘調査したK-435遺跡(札幌市北区北24条西12丁目ほか―旧北海道大学農学部附属農場)は、今回の調査地区のすぐ北側に隣接する遺跡であるが、ここで文化財が包蔵されていた地層は上層が3a-c層、下層が5a層として分類されている。この両層とも人間活動を物語る炭化物片が多く含まれ、擦文時代の竪穴住居も検出された。今回調査したNo.3試掘溝に見られる第4層と第6層は明らかにこれらの文化層に類似し、共に炭化物片が多く

第13図 南新川公務員宿舎試掘溝掘削作業



第14図 No.3試掘溝で検出された文化層とみられる炭化物層



第15図 南新川公務員宿舎の試掘で発見された噴砂の痕跡



含まれることが特徴であった。この特徴と自然堤防上にのった立地環境は、この一帯がかなり高い確率で遺跡の範囲に含まれていることを物語っている。

こうした観察データに基づき、工事計画を変更して遺跡の保護にあたることにした。そのため、札幌市の文化財担当者と協議のうえ、排水柵の設置予定場所を埋没している自然堤防の位置から大幅に移動させ、直接文化財の埋蔵されている層準を破壊されないように配慮した。

また、地表の簡易舗装については、第1層の埋め土表土のみに関係するものなので、特に文化財の包含されている可能性のある地層には影響がないと判断、工事を続行するように指示しておいた。

—古地震資料—

第3層と第4層の間に見られる不規則な砂層は、明らかに地震現象の一環として見られる噴砂現象の痕跡である。同じような形態を示す噴砂の痕跡は、札幌市埋蔵文化財センターが平成2年度に調査した北大第2農場など、札幌市の北区の沖積氾濫原に分布する複数の遺跡で観察されている⁽⁴⁾。だが、これらの遺跡で観察された現象が、全て同時期の所産なのか、また、どの地震に伴っておきたものであるのかについては、まだはっきりしていないらしい。しかし、札幌市内において、このような噴砂が、樽前B火山灰を貫いているという観察例があるので、この火山灰の降灰年代である西暦1600年より新しい時期に発生した大型地震がその原因であった可能性が考えられる。もし、この推理が正しいとすれば、該当する地震は、天保5年(1834年)1月1日に発生した石狩沖地震が有力候補であろう。今後このような地震考古学関係資料の調査例が増加すれば、現在の地震対策上からみても興味深いデータとなり得るであろう。

4：北海道大学教養部（仮設講義棟）新営工事

作業地区 北海道大学札幌団地教養部西側隣接地
調査日時 平成2年11月6日

教養部入学者数の増加に伴う仮設講義棟の新営工事である。教養部S棟西側に道路を隔てて隣接する雑木林の中には、竪穴住居の存在を示す凹地が3箇所ほど観察されるので、予定される工事地区が遺跡の範囲にかかっている恐れがあり、その確認のため

に試掘をおこなった。120cm×400cm、深さ80cmの試掘溝を1箇所、120cm×500cm、深さ180cmの試掘溝を5箇所設定し、土層の堆積ほか埋蔵文化財の有無について調査を実施した。

[調査結果]

どの試掘溝においても、かつての地表部分が削り取られており、その後に50cmから70cmほどの厚さで埋め土(廃棄土)がのせられていた。この埋め土層の下に、粒子の細かい黄褐色の砂層が70cm～80cm続き、やがて還元性の青色粘土層にとってかわる。黄褐色砂層はかなり乾燥しており、通常この地域においては遺跡をのせる地形面に良く見られる性状を呈していた。しかし、遺物を含む可能性のある炭化物層や焼土層は全く検出できなかった。

おそらく、埋蔵文化財を包含していた層準がすでに削剝をうけ除去されていたため、遺物が検出されなかった可能性が強いと考えられる。地層の状況から考えて、隣接する地域には竪穴住居など当時の地表から掘り込まれた遺構底部が残っているケースがあり得るだろう。だが、今回予定された地域については、原地層の破壊が著しかったので、埋蔵文化財調査の必要はないものと判断される。

注；

- (1) 北大構内の遺跡 [6] 24～43頁 1988
- (2) 札幌市埋蔵文化財台帳(付 分布図)
札幌文化財調査報告書II 1989
- (3) K36遺跡 札幌市文化財調査報告書X X X III 1987
- (4) K441遺跡—北34条地点—
札幌市文化財調査報告書X X X VII 1989 8～23頁

II-1 寄贈図書目録 1980年～1990年

北海道大学埋蔵文化財調査室が開設されてから、本年度で10周年を迎えた。この間、多数の研究者、博物館や埋蔵文化財調査センターなど各地の研究機関、教育委員会から、報告書をはじめ多数の紀要や各種の印刷物を寄贈して頂いている。これらの文献は、当調査室の作業を遂行する上に欠くことのできない重要な資料となっており、まことに感謝にたえない。寄贈文献は、発掘された資料同様すべて当調査室に保管され、地域別、機関別に書架に収納され、本学関係者以外の方々にも利用して頂けるように整備されている。ここでは、調査室開設以来平成2年12月末までに寄贈された文献の目録を紹介しておきたい。

文献目録の作成要領は下記の通りである。

記載は、発行機関（または著者等）、報告書名（書名）、発行年月日の順になっている。報告書名の配列は、北海道内については報告書出版数の関係で便宜的に隣接する複数管内にまとめて5分し、そのエリア内については発行機関（または著者）を五十音順配列にしてある。また、埋蔵文化財センターと博物館・研究所関係の出版物については、地域に関係なく発行機関別に一括した。ただし、年報・紀要の類は、リスト最後の部分に一括しておいた。なお、目録全体の統一と索引上の便宜を図るために、報告書表紙の表記を、中表紙あるいは奥付の記載に準拠して序列を変えさせて頂いたところがある。御了承頂きたい。

発行機関（者）	報告書名	年次
[北海道：上川・留萌・宗谷管内]		
旭川市教育委員会	あさひかわの遺跡1；錦町5遺跡 —発見された擦文時代の生活のあと— (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第3輯付篇) ……………	1984
——	あさひかわの遺跡2；忠和2遺跡 —発掘された縄文時代の生活のあと— (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第4輯付篇) ……………	1984
——	あさひかわの遺跡3；永山4遺跡 —縄文時代の終末期の生活のようす— (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第8輯付篇) ……………	1985
——	旭川市神居古潭8遺跡 —西丘農免農道整備事業に伴う発掘調査報告書— ……………	1979
——	忠和2遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第4輯) ……………	1984
——	北門町3遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第5輯) ……………	1984
——	錦町5遺跡II (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第6輯) ……………	1985
——	永山4遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第8輯) ……………	1985
——	末広5遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第9輯) ……………	1987
——	錦町5遺跡III (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第10輯) ……………	1987
——	錦町2遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第11輯) ……………	1988
——	萩ヶ丘遺跡 (北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告第12輯) ……………	1989
嵐山遺跡群調査会	嵐山遺跡 ……………	1968
フィルドの会	東神楽町沢田の沢遺跡発掘報告 —旭川空港拡張整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査— ……………	1981
枝幸町教育委員会	ホロベツ砂丘遺跡 —幌別川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— ……………	1985
——	目梨泊遺跡 —一般国道238号線枝幸町地内カムイ道路改良工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書— ……………	1988
小平町教育委員会・留萌土木現業所	おびらたかさご —擦文時代の集落跡— (小平町文化財調査報告1) ……………	1983
小平町教育委員会	おびらたかさごII —擦文時代の集落跡— (小平町文化財調査報告2) ……………	1983

天塩町教育委員会	天塩町における考古学的調査	1982
——	天塩町における考古学的調査	1983
苫前町教育委員会	香川三線遺跡 一道営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— (苫前町文化財調査報告第1輯)	1987
——	香川6遺跡・香川三線遺跡 一擦文文化の集落跡—河川改修及び橋梁架設に 伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—(苫前町文化財調査報告第2輯)	1988
名寄市教育委員会	名寄市の遺跡 一名寄市埋蔵文化財一般分布調査報告— (名寄市文化財調査報告書Ⅲ)	1982
——	名寄市日進2遺跡・日進31遺跡 一道々美深・名寄線凍雪害防止工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書—(名寄市文化財調査報告書Ⅳ)	1988
——	名寄市日進33遺跡 一道々美深・名寄線凍雪害防止工事に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書—(名寄市文化財調査報告書Ⅴ)	1988
富良野市教育委員会	鳥沼遺跡 (富良野市文化財調査報告第1輯)	1986
——	三の山2遺跡 (富良野市文化財調査報告第2輯)	1986
——	富良野市東麓郷1・2遺跡発掘調査概報	1986
[北海道：釧路・根室・網走管内]		
北見市立郷土博物館	開成4遺跡 一道営畑地帯総合土地改良事業北見川南地区内埋蔵文化財 緊急発掘調査報告書—	1983
——	広郷8遺跡(I) 一道営畑地帯総合土地改良事業北見南部地区内埋蔵文化財 緊急発掘調査概要報告書—	1984
釧路村教育委員会	昆布森中学校裏遺跡発掘調査報告書 (釧路村文化財調査報告2)	1977
釧路町教育委員会	別保川左岸1遺跡発掘調査報告書 (釧路町文化財調査報告4)	1981
釧路市教育委員会	釧路市幣舞遺跡調査報告書	1990
釧路市埋蔵文化財調査センター	釧路市桜ヶ岡1・2遺跡調査報告書	1987
——	釧路市桜ヶ岡3遺跡調査報告書	1987
——	釧路市桜ヶ岡2遺跡調査報告書	1988
——	釧路市材木町5遺跡調査報告書Ⅱ	1990
標津町教育委員会	伊茶仁カリカリウス遺跡発掘調査報告書 一昭和56年度標津遺跡群保存修理事業—	1982
——	標津の竪穴Ⅴ 一昭和56年度標津町内遺跡分布調査事業報告書—	1982
——	標津の竪穴Ⅷ 一昭和59年度標津町内遺跡分布調査事業報告書—	1985
——	標津の竪穴Ⅸ 一昭和60年度標津町内遺跡分布調査事業報告書—	1986
——	標津の竪穴Ⅹ 一昭和61年度標津町内遺跡分布調査事業報告書—	1987
——	標津の竪穴Ⅺ 一昭和62年度標津町内遺跡分布調査事業報告書—	1988
——	古道第2竪穴群遺跡 一平成元年度道々川北茶志骨線局部改良工事に伴う発掘調査報告書—	1990
——	伊茶仁チシネ第3竪穴群遺跡 一平成元年度一般国道335号標津町忠類歩道新設工事に伴う発掘調査報告書—	1990
斜里町教育委員会	ピラガ丘遺跡 一秋山地点発掘調査報告書— (斜里町文化財調査報告Ⅳ)	1990
常呂町教育委員会	トコロチャシ南尾根遺跡 1985年度	1986
——	T K 67遺跡 一北海道営畑地帯総合土地改良に伴う発掘調査報告書—	1988
——	T K 73遺跡 一常呂川河口右岸掘削護岸工事に係る発掘調査概報—	1990
根室市教育委員会	別当賀一番沢川遺跡発掘調査報告書 一市道別当賀川口線特殊改良1種事業の工事用地内埋蔵文化財発掘調査—	1986

——	初田牛20遺跡発掘調査報告書	1989
丸瀬布町教育委員会	金山1遺跡 — 一般国道333号線切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1986
女満別町・女満別町教育委員会・女満別町郷土保勝会	女満別遺跡（復刻）	1982
紋別市教育委員会	紋別市オンネナイ第2地点遺跡 — 発掘調査報告書—	1978
——	新生2遺跡・新生4遺跡	
——	—中渚滑紋別（停）線特1工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1987
——	オンネナイ3遺跡 — 一般国道238号紋別市紋別バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1988
羅臼町教育委員会	松法川北岸遺跡（羅臼町文化財報告8）	1984
[北海道：胆振・日高・十勝管内]		
浦河町教育委員会	旧姉茶墓地調査報告	1980
帯広市教育委員会・十勝郷土研究会	帯広八千代C遺跡 — 北海道帯広市八千代C遺跡発掘調査報告書—	1977
帯広市教育委員会	上似平遺跡 — 北海道帯広市上似平遺跡発掘調査報告書—	1978
帯広先史文化研究会	帯広空港南A遺跡・宮本遺跡 — 範囲確認調査報告書—	1982
十勝支庁	帯広空港南A遺跡 — 道営畑地総合事業大正地区第10号農道改良工事区内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—	1983
帯広市教育委員会	帯広暁遺跡（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第1冊）	1985
——	帯広空港南B遺跡（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第2冊）	1986
——	帯広宮本遺跡（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第3冊）	1986
——	帯広自由ヶ丘遺跡（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第4冊）	1986
株式会社陸奥倶楽部・帯広市教育委員会	帯広暁遺跡2（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第5冊）	1986
帯広市教育委員会	帯広上似平遺跡2（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第6冊）	1987
——	帯広暁遺跡3（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第7冊）	1988
——	帯広八千代A遺跡（帯広埋蔵文化財発掘調査報告第8冊）	1990
音別町教育委員会	ノトロ岬 — 昭和58年度音別町ノトロ岬遺跡発掘調査報告書—	1984
上士幌町教育委員会	居辺遺跡	1985
——	居辺14遺跡 — 一般道々居辺・本別線道路特改一種工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—	1985
静内町教育委員会	御殿場山遺跡とその周辺における考古学的調査	
——	—静内町遺跡分布調査報告書—その2	1984
——	静内町清水丘における考古学的調査	
——	—公営住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1985
社団法人北海道建築士会十勝支部帯広分会・帯広市教育委員会	帯広市古建築調査書Ⅲ 双葉幼稚園	1986
——	帯広市古建築調査書Ⅳ 三井金物店	1987
——	帯広市古建築調査書Ⅴ 真正閣	1988
——	帯広市古建築調査書Ⅵ 帯廣湯	1989
——	帯広市古建築調査書Ⅶ 野口病院	1990
苫小牧市教育委員会	苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅴ 昭和55年度版	1983
——	静川16遺跡 — 縄文時代の環濠と集落—	1983
苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター		

	苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI 昭和56年度版	1984
—	タブコブ —北海道苫小牧市植苗地区国道36号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1984
—	ニナルカ —一般国道235号線苫東基地関連国道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1985
—	苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書VII 昭和57年度版	1985
—	柏原24遺跡 —苫小牧市柏原一般廃棄物最終処分場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1986
—	苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書VIII 昭和59年度版	1986
—	苫小牧市東部工業地帯埋蔵文化財分布調査報告書 昭和59年度版	1986
—	静川16遺跡発掘調査報告書 —静川16遺跡の史跡指定に係る範囲確定並びに 環濠との関連資料の有無を確認するための発掘調査—	1986
—	厚真町厚真7遺跡・共和遺跡・早来町遠浅1遺跡発掘調査報告書 (苫小牧東部工業地帯の遺跡群II)	1987
苫小牧市教育委員会	弁天貝塚I —幕末期以降におけるアイヌ貝塚の発掘調査報告書—	1987
—	弁天貝塚II —幕末期以降におけるアイヌ貝塚の発掘調査報告書—	1988
苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター	弁天貝塚III —幕末期以降におけるアイヌ貝塚の発掘調査報告書—	1989
—	柏原4遺跡 —苫小牧市字柏原市道ニナルカ遠浅線改良工事に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書—	1989
—	苫小牧市静川37遺跡発掘調査(第一次)概要報告書 —道々上厚真苫小牧線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1989
—	苫小牧市静川37遺跡発掘調査(第二次)概要報告書 —道々上厚真苫小牧線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	1989
—	高丘E遺跡 —苫小牧市高丘地区におけるマンション建設工事に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書—	1990
—	厚真町厚真3・12遺跡・苫小牧市静川8遺跡発掘調査報告書 (苫小牧東部工業地帯の遺跡群III)	1990
新冠町教育委員会	新冠町氷川遺跡	1975
平取町教育委員会	平取町二風谷小学校校庭遺跡 —埋蔵文化財発掘調査報告書—	1987
—	平取町二風谷遺跡 —沙流川総合開発事業(二風谷ダム建設用地内)埋蔵文化財発掘調査報告書—	1987
北海道教育委員会	昭和61年度 アイヌ民俗文化財調査報告書 アイヌ民俗調査VI(十勝・網走地方)	1987
北海道文化財保護協会	南稀府5遺跡 —北海道立伊達緑丘高等学校建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—	1983
幕別町教育委員会	猿別C遺跡の考古学的調査	1983
—	幕別町札内I遺跡 —札内高台線改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—	1985
—	札内I遺跡 —北海道中川郡幕別町札内I遺跡第1次発掘調査報告書—	1985
三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター	ショップ遺跡 —三石町特別養護老人ホーム建設に伴う緊急発掘調査報告書—	1988
室蘭開発建設部・平取町	平取町イルエカシ遺跡 —発掘調査概報—	1988
門別町教育委員会	エサンヌップ2遺跡・エサンヌップ3遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 —縄文時代中期の集落跡—	1990
—	ペサウンコツ遺跡・ユクウンコツ2遺跡	1990

[北海道：石狩・空知・後志管内]

石狩町教育委員会	石狩町紅葉山43号遺跡 —石狩町における縄文時代晩期の遺跡—	1974
石狩町教育委員会・紅葉山33号遺跡調査団	続縄文時代の墓壇群の研究 —石狩町紅葉山33号遺跡の例—	1975
紅葉山遺跡調査団・石狩町教育委員会	紅葉山砂丘における考古学的調査報告 —石狩町における北海道型土師器 出土の住居跡群と縄文時代中期の土器出土遺跡の調査—	1975
石狩町教育委員会	SHIBISHIUSU II —花畔砂堤列における縄文時代晩期の住居址・堅穴群・墓地の発掘記録—	1979
—	紅葉山33号遺跡 —紅葉山砂丘における続縄文時代前半期の墓地発掘の記録—	1984
恵庭市教育委員会	カリンバ2遺跡	1987
—	カリンバ2遺跡	1989
—	中島松5遺跡B地点・中島松7遺跡C地点	1990
—	柏木川11遺跡	1990
江別市教育委員会	旧豊平河畔七丁目沢7 (江別市文化財調査報告書XVIII)	1984
—	高砂遺跡(4) (江別市文化財調査報告書26)	1988
—	大麻21遺跡(2) (江別市文化財調査報告書27)	1988
—	元江別1遺跡 (江別市文化財調査報告書28)	1988
—	大麻3遺跡(3) (江別市文化財調査報告書29)	1989
—	高砂遺跡(5) (江別市文化財調査報告書30)	1989
—	元江別1・2遺跡 (江別市文化財調査報告書31)	1989
—	元江別10遺跡 (江別市文化財調査報告書32)	1989
—	西野幌3遺跡 (江別市文化財調査報告書33)	1989
—	大麻17遺跡 (江別市文化財調査報告書34)	1989
小樽市教育委員会	忍路11遺跡 —北後志東部地区営農団地広域農道整備事業に係る埋蔵文化財 発掘調査報告書—	1985
—	チブタシナイ遺跡 —蘭島川水系河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査概報—	1987
—	蘭島遺跡 —埋蔵文化財発掘調査報告書第1輯—	1990
—	蘭島餅屋沢遺跡 —蘭島川水系河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査概報—	1990
神恵内村教育委員会	神恵内観音洞窟	1984
札幌市教育委員会	白石神社遺跡 (札幌市文化財調査報告書I)	1973
—	N154遺跡 (札幌市文化財調査報告書IV)	1974
—	N162遺跡 (札幌市文化財調査報告書V)	1974
—	N293遺跡 (札幌市文化財調査報告書VI)	1974
—	T310遺跡 (札幌市文化財調査報告書VII)	1974
—	N311遺跡 (札幌市文化財調査報告書VIII)	1974
—	S238遺跡・S239遺跡 (札幌市文化財調査報告書IX)	1975
—	S153遺跡 (札幌市文化財調査報告書X)	1976
—	S256遺跡・S257遺跡・S253遺跡 (札幌市文化財調査報告書XI)	1975
—	N309遺跡 (札幌市文化財調査報告書XII)	1975
—	T210遺跡 (札幌市文化財調査報告書XIII)	1976
—	N309遺跡 (札幌市文化財調査報告書XVI)	1977
—	N199遺跡 (札幌市文化財調査報告書XVII)	1977
—	S411遺跡 (札幌市文化財調査報告書XVIII)	1978
—	S255遺跡 (札幌市文化財調査報告書XIX)	1979

—	K446 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX)	1979
—	K460 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXII)	1980
—	S458 遺跡・S320 遺跡・S456 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXIII)	1982
—	S153 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXIV)	1982
—	S354 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXV)	1982
—	T361 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXIX)	1987
—	K135 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XXIX)	1987
—	S270 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XI)	1987
—	N295 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XII)	1987
—	K36遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XIII)	1987
—	M67遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XIV)	1988
—	K482 遺跡・K483 遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XV)	1988
—	K441 遺跡北33条地点・N12遺跡	(札幌市文化財調査報告書XX XVI)	1989
—	K441 遺跡北34条地点	(札幌市文化財調査報告書XX XVII)	1989
—	T151 遺跡南側地点	(札幌市文化財調査報告書XX XVIII)	1989
—	K135 遺跡西5丁目通地点	(札幌市文化財調査報告書XX XIX)	1990
—	K135 遺跡4丁目地点 1988年度調査	(札幌市文化財調査報告書XL)	1990
—	札幌市埋蔵文化財台帳 付 分布図	(札幌市文化財調査報告書II)	1989
島牧村教育委員会	チャランケ・チャシ発掘調査報告書		1985
寿都町教育委員会	寿都町文化財調査報告書I		1979
—	寿都町文化財調査報告書II		1980
千歳市教育委員会	ウサクマイ遺跡群		1977
—	ウサクマイ遺跡群とその周辺における考古学的調査 (千歳市文化財調査報告書IV)		1979
—	末広遺跡における考古学的調査(上)	(千歳市文化財調査報告書VII)	1981
—	末広遺跡における考古学的調査(下)	(千歳市文化財調査報告書VIII)	1982
—	メボシ川2遺跡における考古学的調査	(千歳市文化財調査報告書IX)	1983
—	末広遺跡における考古学的調査(続)	(千歳市文化財調査報告書XI)	1985
—	梅川3遺跡における考古学的調査	(千歳市文化財調査報告書XII)	1986
—	イヨマイ6遺跡における考古学的調査(2)	(千歳市文化財調査報告書XIV)	1990
—	ウサクマイX遺跡における考古学的調査	(千歳市文化財調査報告書XV)	1990
泊村教育委員会	茶津洞穴遺跡発掘調査報告書		1989
ニセコ町教育委員会	昭和57年度 ニセコ町内遺跡分布調査報告書II		1983
北海道教育委員会	泊発電所建設に係る埋蔵文化財包蔵地確認調査報告書		1983
北海道先史考古学研究会	小野幌遺跡の発掘調査(略報) —札幌市小野幌遺跡における縄文文化早期および中期遺物出土地点の発掘—		1975
北海道住宅団地開発事務所・北海道文化財保護協会	北広島団地第1遺跡		1971
北海道文化財保護協会	柏木川 —擦文時代・縄文時代晩期の墳墓と縄文時代中期の住居址—		1971
—	西の里2遺跡 —北海道立北広島西高等学校建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—		1983
北海道文化財研究所	共和町宮岡1遺跡 —発掘調査概報—		1985
—	泊村茶津貝塚 —発掘調査概報—		1985

——	宮岡1遺跡 —泊発電所建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査— (北海道文化財研究所調査報告書第1集)	1986
——	積丹半島の「袋澗」 —ニシン漁の栄枯を残すミニ漁港の産業考古学調査— (北海道文化財研究所調査報告書第2集)	1987
——	へロカリウス遺跡 —泊発電所建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査— (北海道文化財研究所調査報告書第3集)	1987
余市町教育委員会	沢町遺跡	1989
——	1989年度大川遺跡発掘調査概報 —余市川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要—	1990

[北海道：渡島・檜山管内]

恵山町教育委員会	日ノ浜砂丘1遺跡	1986
上ノ国町教育委員会	史跡上ノ国勝山館跡IV —昭和57年度発掘調査整備事業概報—	1983
——	史跡上ノ国勝山館跡V —昭和58年度発掘調査整備事業概報—	1984
——	史跡上ノ国勝山館跡VI —昭和59年度発掘調査整備事業概報—	1985
——	史跡上ノ国勝山館跡VII —昭和60年度発掘調査整備事業概報—	1986
——	史跡上ノ国勝山館跡VIII —昭和61年度発掘調査整備事業概報—	1987
——	史跡上ノ国勝山館跡IX —昭和62年度発掘調査整備事業概報—	1988
——	史跡上ノ国勝山館跡X —昭和63年度発掘調査整備事業概報—	1989
——	史跡上ノ国勝山館跡XI —平成元年度発掘調査整備事業概報—	1990
——	夷王山墳墓群 —昭和56～58年度町内遺跡詳細分布調査事業報告書—	1984
上ノ国町教育委員会	大岱沢A遺跡 —上ノ国町八幡野第1地区道営農面農道整備事業用地内遺跡 発掘調査報告書—	1987
——	新村4遺跡 —上ノ国町豊留地区道営農地開発事業用地内遺跡発掘調査報告書—	1987
上ノ国町教育委員会・函館土木現業所	上ノ国漁港遺跡 —昭和58・60年度発掘調査報告書—	1987
瀬棚町教育委員会	南川2遺跡	1985
戸井町教育委員会	蛸子川2遺跡	1989
——	浜町A遺跡I	1990
七飯町教育委員会	峠下聖山遺跡	1979
——	大中山5遺跡	1983
——	七飯本町1・2遺跡	1986
松前町教育委員会	松前町大津遺跡発掘報告書	1974
——	白坂 —国道228号線改良拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書—	1983
——	札前 —国道228号線改良拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書—	1985
——	史跡福山城II —昭和59年度発掘調査概要報告—	1985
——	史跡福山城III —昭和60年度発掘調査概要報告—	1986
——	史跡福山城IV —昭和61年度発掘調査概要報告—	1987
——	史跡福山城VI —昭和63年度発掘調査概要報告—	1989
——	史跡福山城VII —平成元年度発掘調査概要報告—	1990
——	福山城(松前城)本丸御門保存修理工事報告書	1986
——	寺町貝塚 —団体営農道江良寺町線改良工事に伴う発掘調査報告書—	1988
松前町史に親しむ会	大沢キリシタン処刑擬定地発掘調査報告書	1988
南茅部町教育委員会	ハマナス野遺跡調査概報	1977

——	白尻B遺跡発掘調査報告書	
	—宅地造成に伴う国庫補助事業による第1次発掘調査—	1977
——	白尻小学校遺跡 —炭化構造材を残す縄文時代後期の竪穴住居址の調査—	1980
——	木直C遺跡	
	—北海道茅部郡南茅部町における縄文時代中期末の集落と配石群の調査—	1981
——	ハマナス野遺跡VII	
	—北海道茅部郡南茅部町における縄文時代前・中期集落の調査—	1981
——	ハマナス野遺跡IX	
	—北海道茅部郡南茅部町における縄文時代前・中期集落の調査—	1983
——	白尻B遺跡 vol.V —縄文時代中期集落跡の発掘調査報告—	1985
——	川汲B遺跡 —縄文時代早期貝殻文土器文化ほかの発掘調査報告—	1986
——	白尻B遺跡 vol.VI —縄文時代中期集落跡の発掘調査報告—	1986
——	白尻B遺跡 vol.VII —縄文時代中期集落跡の発掘調査報告—	1987
——	白尻B遺跡 vol.VIII —縄文時代中期集落跡の発掘調査報告—	1988

南茅部町埋蔵文化財調査団

	川汲遺跡・川汲D遺跡	1990
森町教育委員会	御幸町 —茅部郡森町における縄文時代の住居址・土壌群発掘記録—	1985
八雲町教育委員会	八雲焼 —窯跡の調査報告と解説—	1977
——	栄浜 —八雲町栄浜1遺跡発掘調査報告書—	1983
——	台の上遺跡	1987
——	栄浜1遺跡	1987

[北海道埋蔵文化財センター]

北海道埋蔵文化財センター

	美沢川流域の遺跡群VI —新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第8集)	1982
——	今金町美利河1遺跡 —美利河ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報—	1984
——	美沢川流域の遺跡群VIII —新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第17集)	1985
——	湯の里遺跡群 —津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第18集)	1985
——	登別市川上B遺跡 —北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財第二次発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第20集)	1985
——	登別市千歳5遺跡 —北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財第二次発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第21集)	1985
——	尻岸内町中浜E遺跡 —尻岸内町中浜E遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第22集)	1985
——	今金町美利河1遺跡 —美利河ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第23集)	1985
——	美沢川流域の遺跡群IX —新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第24集)	1986
——	江別市西野幌11遺跡 —道々野幌総合運動公園線改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第25集)	1986

—	ユオイチャシ跡・ポロモイチャシ跡・二風谷遺跡 —沙流川総合開発事業 （二風谷ダム建設用地内）埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第26集）	1986
—	登別市川上B遺跡・C地区 —北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第27集）	1986
—	岩見沢市野々沢C遺跡 —北海道縦貫自動車道岩見沢地区埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第28集）	1986
—	砂川市焼山2遺跡・奈井江町宮村2遺跡・茶志内4遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第29集）	1986
—	上ノ国町小岱遺跡 —八幡野第一地区道営農免農道整備事業用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書—（財北海道埋蔵文化財センター調査報告第30集）	1986
—	上ノ国町豊田西遺跡 —豊留地区道営農地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第31集）	1986
—	知内町湯の里3遺跡 —津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査 報告書（2）—（財北海道埋蔵文化財センター調査報告第32集）	1986
—	木古内町建川1遺跡・新道4遺跡 —津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書（3）— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第33集）	1986
—	木古内町札苅遺跡 —津軽海峡線（北海道方）連絡設備工事敷地内埋蔵文化財 発掘調査報告書—（財北海道埋蔵文化財センター調査報告第34集）	1986
—	新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —美沢川流域の遺跡群X— フレベツ遺跡群II—ペンケナイ川流域の遺跡群I— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第35集）	1987
—	千歳市ママチ遺跡III （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第36集）	1987
—	上磯町矢不来2遺跡 —一般国道228号上磯町矢不来法面防災工事埋蔵文化財 発掘調査報告書—（財北海道埋蔵文化財センター調査報告第37集）	1987
—	登別市亀田公園遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第38集）	1987
—	江別市西野幌3遺跡 —野幌総合運動公園改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第39集）	1987
—	鷹栖町嵐山2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第40集）	1987
—	砂川市空知太2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第41集）	1987
—	深川市向陽2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第42集）	1987
—	木古内町建川2遺跡・新道4遺跡 —津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査概報—	1987
—	木古内町建川2遺跡・新道4遺跡 —津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書（4）— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第43集）	1987
—	新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —調査の概要—美沢川流域の遺跡群XI—ペンケナイ川流域の遺跡群II— （財北海道埋蔵文化財センター調査報告第44集）	1988

—	函館市石川1遺跡 — 一般国道5号函館新道道路改良工事用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第45集)	1988
—	函館市桔梗2遺跡 — 一般国道5号函館新道道路改良工事用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第46集)	1988
—	上磯町矢不来天満宮跡 — 一般国道228号上磯町茂辺地法面工事用地内埋蔵文化財 発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第47集)	1988
—	江別市西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡 —道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第48集)	1988
—	深川市音江2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第49集)	1988
—	深川市国見2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第50集)	1988
—	深川市内園2遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第51集)	1988
—	木古内町新道4遺跡 —津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査 報告書(5)— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第52集)	1988
—	小樽市忍路土場遺跡・忍路5遺跡 —北後志東部地区広域営農団地農道整備 事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—昭和60・61・62・63年度 (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第53集)	1989
—	江別市西野幌12遺跡 —道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第54集)	1989
—	深川市納内6丁目付近遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第55集)	1989
—	深川市国見2遺跡(II) —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第56集)	1989
—	深川市東広里遺跡 —音江築堤工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第57集)	1989
—	美沢川流域の遺跡群Ⅶ —新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第58集)	1989
—	今金町美利河1・2砂金採掘跡 —後志利別川水系美利河ダム建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第59集)	1989
—	深川市納内3遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第60集)	1989
—	伊達市牛舎川右岸遺跡・稀府川遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘 調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第61集)	1990
—	美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ —新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第62集)	1990
—	深川市納内6丁目付近遺跡Ⅱ —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第63集)	1990
—	伊達市谷藤川右岸遺跡 —北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書— (財北海道埋蔵文化財センター調査報告第64集)	1990

—	仁木町モンガク丘陵の遺跡群 —北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内 埋蔵文化財発掘調査報告書— (北海道埋蔵文化財センター調査報告第65集) ……………	1990
—	余市町栄町5遺跡 —北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内 埋蔵文化財発掘調査報告書— (北海道埋蔵文化財センター調査報告第66集) ……………	1990
—	余市町登町2遺跡・登町3遺跡 —北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内 埋蔵文化財発掘調査報告書— (北海道埋蔵文化財センター調査報告第67集) ……………	1990
—	調査年報1 昭和63年度 ……………	1989
—	調査年報2 平成元年度 ……………	1989

〔青森県〕

青森県教育委員会	碓ヶ関大面遺跡発掘調査報告書 —東北縦貫自動車道関係— (青森県埋蔵文化財調査報告書第55集) ……………	1980
—	垂柳遺跡発掘調査概報 (青森県埋蔵文化財調査報告書第78集) ……………	1983
—	朝日山 (青森県埋蔵文化財調査報告書第87集) ……………	1984
浪岡町教育委員会	大沼遺跡発掘調査報告書 —平安時代の低湿地遺跡の調査— (浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第4集) ……………	1990
階上町教育委員会	白座遺跡・野場遺跡(3)発掘調査報告書 ……………	1989
八戸市教育委員会	史跡根城跡発掘調査報告書VII 昭和58年度 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第14集) ……………	1985
—	丹後谷地遺跡 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集 八戸新都市区域内埋蔵 文化財発掘調査報告書II) ……………	1986
—	史跡根城跡発掘調査報告書VIII 昭和59年度 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第16集) ……………	1986
—	鳥木沢遺跡・丹後谷地遺跡(2)・笹子遺跡(4) (八戸市埋蔵文化財調査 報告書第17集 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書III) ……………	1986
—	古宮遺跡・湯浅屋新田遺跡(2)・丹後平遺跡(3) (八戸市埋蔵文化財 調査書第19集 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書IV) ……………	1987
—	史跡根城跡環境整備事業概報I ……………	1987
—	田面水平遺跡(1) (八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集 八戸新都市区域内 埋蔵文化財発掘調査報告書V) ……………	1988
—	中道遺跡発掘調査報告書 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第21集) ……………	1988
—	田面木遺跡発掘調査報告書 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第22集) ……………	1988
—	古坂・夏間木(1)遺跡 —鳥沢・豊崎線道路改良工事に伴う発掘調査報告書— (八戸市埋蔵文化財調査報告書第23集) ……………	1988
—	史跡根城跡環境整備事業概報II ……………	1988
—	丹後平古墳発掘調査概報 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第24集 八戸新都市区域内 埋蔵文化財発掘調査報告書VI) ……………	1988
—	史跡根城跡発掘調査報告書X (八戸市埋蔵文化財調査報告書第25集) ……………	1988
—	八幡遺跡発掘調査報告書 (八戸市埋蔵文化財調査報告書第26集) ……………	1988
—	丹後平遺跡(2)・丹後谷地遺跡(4)・笹子遺跡(3) (八戸市埋蔵文化財 調査報告書第27集 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書VII) ……………	1988
—	史跡根城跡環境整備事業概報III ……………	1989

——	田面木遺跡発掘調査報告書（八戸市埋蔵文化財調査報告書第28集）	1989
——	毛合清水（1）・（2）遺跡 —高館・上長線道路改良事業に伴う発掘調査報告書— （八戸市埋蔵文化財調査報告書第29集）	1989
——	鴨平（3）遺跡・土橋遺跡 —土橋地区普通農道整備事業に伴う発掘調査報告書— （八戸市埋蔵文化財調査報告書第30集）	1989
——	史跡根城跡発掘調査報告書XI（八戸市埋蔵文化財調査報告書第31集）	1989
——	熊野堂遺跡発掘調査報告書（八戸市埋蔵文化財調査報告書第32集）	1989
——	赤御堂遺跡（八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集）	1989
——	田面木平（1）遺跡（八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集 八戸新都市区域内 埋蔵文化財発掘調査報告書VIII）	1989
——	史跡根城跡発掘調査報告書XII（八戸市埋蔵文化財調査報告書第35集）	1990
——	石手洗遺跡・田面木平（2）遺跡（八戸市埋蔵文化財調査報告書第36集 八戸市内遺跡発掘調査報告書1）	1990
——	丹後平（1）遺跡（八戸市埋蔵文化財調査報告書第37集 八戸新都市区域内 埋蔵文化財発掘調査報告書IX）	1990
——	見立山（2）遺跡 —八戸市西霊園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— （八戸市埋蔵文化財調査報告書第38集）	1990

〔岩手県〕

（財）岩手県埋蔵文化財センター

二戸市沢内B遺跡（岩手県埋文センター文化財調査報告書第7集） 1979

——	江刺市力石II遺跡・兎II遺跡・落合III遺跡・朴ノ木遺跡（岩手県埋文センター文化財 調査報告書第8集 主要地方道一関・北上線関連遺跡発掘調査報告書）	1979
----	--	------

（財）岩手県埋蔵文化財センター・日本道路公団

松尾村野駄遺跡・寄木遺跡・西根町崩石遺跡（岩手県埋文センター文化財調査報告書
第11集 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書） 1980

（財）岩手県埋蔵文化財センター・建設省岩手工事事務所

雫石下平遺跡・高校西遺跡 昭和52年度調査（岩手県埋文センター文化財調査報告書第14集）
1981

（財）岩手県埋蔵文化財センター・建設省御所ダム工事事務所

盛岡市下猿田III遺跡・雫石町安庭古墳・伝久・町場II・町場III遺跡
昭和49・54年度（岩手県埋文センター文化財調査報告書第16集
御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書） 1981

（財）岩手県埋蔵文化財センター・日本道路公団

二戸郡安代町扇畑I遺跡 昭和54年度（岩手県埋文センター文化財調査報告書第17集
東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書） 1981

（財）岩手県埋蔵文化財センター・建設省岩手工事事務所

水沢市玉貫遺跡・金ヶ崎町西根遺跡（岩手県埋文センター文化財調査報告書第18集
金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書） 1981

（財）岩手県埋蔵文化財センター・日本道路公団

松尾村長者屋敷遺跡（II）（岩手県埋文センター文化財調査報告書第20集
東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書） 1981

——	安代町荒屋I遺跡・荒屋II遺跡・越戸II遺跡（岩手県埋文センター文化財調査報告書 第21集 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書）	1981
----	---	------

（財）岩手県埋蔵文化財センター・建設省岩手工事事務所

	二戸市上田面遺跡・大淵遺跡・火行塚遺跡 (岩手県埋文センター文化財調査報告書 第23集 二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書)	1981
盛岡市教育委員会	志波城跡 —昭和55年度発掘調査概報—	1981
——	志波城跡 —昭和56年度発掘調査概報—	1982
[秋田県]		
秋田県教育委員会・払田柵跡調査事務所	払田柵跡 —第23～30次発掘調査概要—	1980
秋田県教育委員会	中田面・重兵衛台Ⅰ・重兵衛台Ⅱ・根洗場遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第74集)	1980
秋田県埋蔵文化財振興会	杉沢台遺跡・竹生遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第83集)	1981
——	国道103号線バイパス工事関係遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第84集)	1981
——	藤株遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第85集)	1981
——	上葛岡Ⅳ遺跡・駒林遺跡・案内Ⅱ遺跡・猿ヶ平Ⅰ遺跡 (秋田県文化財調査報告書第91集 東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅴ)	1982
秋田県教育委員会	腹鞍の沢遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第97集)	1982
秋田県埋蔵文化財振興会	平鹿遺跡発掘調査報告書 (秋田県文化財調査報告書第101集)	1983
秋田県教育委員会	妻の神Ⅰ遺跡・乳牛平遺跡 (秋田県文化財調査報告書第107集 東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅷ)	1984
——	妻の神Ⅲ遺跡 (秋田県文化財調査報告書第108集 東北縦貫自動車道 発掘調査報告書Ⅸ)	1984
——	三十刈Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書 —秋田県男鹿市における縄文・弥生・平安時代 遺跡の調査— (秋田県文化財調査報告書第110集)	1984
——	石名館遺跡発掘調査報告書 —仙北平野農業水利事業上総川排水路工事に係る 埋蔵文化財発掘調査— (秋田県文化財調査報告書第112集)	1984
——	案内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡 (秋田県文化財調査報告書第115集 県道田山花輪線 関係遺跡発掘調査報告書)	1984
秋田市教育委員会	地藏田B遺跡・台A遺跡・湯ノ沢Ⅰ遺跡・湯ノ沢F遺跡 (秋田新都市開発整備 事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書)	1986
秋田市教育委員会	久保田城跡 —一本丸御隅櫓跡発掘調査報告書—	1989
秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所	秋田城跡 —平成元年度秋田城跡発掘調査概報—	1990
秋田県埋蔵文化財センター	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第1号	1986
——	秋田県埋蔵文化財センター年報2	1984
——	秋田県埋蔵文化財センター年報3	1985
——	秋田県埋蔵文化財センター年報5	1987
[宮城県]		
岩出山町教育委員会	座散乱木遺跡 —旧石器時代の岩出山—	1982
石器文化談話会	座散乱木遺跡 —考古学と自然科学の提携—	1983

〔千葉県〕

袖ヶ浦町・(勸)君津郡市文化財センター

千葉県袖ヶ浦町清水川台遺跡発掘調査報告書 (勸)君津郡市文化財センター発掘
調査報告書第2集) 1983

日本文化財研究所 寺沢遺跡 (日本文化財研究所文化財調査報告4) 1977

(勸)君津郡市文化財センター

年報No.1 研究紀要I 1983

〔群馬県〕

渋川市教育委員会 中筋遺跡 一第2次発掘調査報告書一 (渋川市発掘調査報告書第18集) 1988

(勸)群馬県埋蔵文化財調査事業団

年報4 1985

〔東京都〕

荒川区道灌山遺跡調査団

道灌山遺跡D地点発掘調査報告書 1988

荒川区日暮里延命院貝塚調査団

日暮里延命院貝塚発掘調査概報 1988

落越遺跡調査団 中郷遺跡 1990

葛西城址調査団 葛西城址 一葛飾区青戸7丁目14番地点発掘調査報告書一 1987

—— 葛西城址 一葛飾区青戸7丁目19番第1地点発掘調査報告書一 1987

葛飾区教育委員会 柴又河川敷遺跡 一東京都葛飾区柴又6丁目24番先公共溝改良工事に伴う埋蔵
文化財有無確認調査報告書 1987

葛西城址調査会 葛西城址X 一葛飾区青戸7丁目28番地点発掘調査報告書一 1988

—— 葛西城址 一葛飾区青戸7丁目36番地点発掘調査報告書一 1988

葛飾区遺跡調査会 本郷・正福寺・鬼塚遺跡 (葛飾区遺跡調査報告第3集) 1989

—— 古録天遺跡 一葛飾区柴又1・2・3丁目付近水道工事に伴う埋蔵文化財発掘
調査報告書一 (葛飾区遺跡調査報告第4集) 1989

—— 鬼塚遺跡II (葛飾区遺跡調査報告第8集) 1989

旧芝離宮庭園調査団 旧芝離宮庭園 一浜松町駅高架式歩行者道架設工事に伴う発掘調査報告一 1988

世田谷区教育委員会・世田谷区遺跡調査会

諏訪山遺跡I 1984

—— 上神明遺跡I 1984

—— 上之台遺跡I・大蔵遺跡 1984

—— 下山北遺跡 1984

—— 向山遺跡 1985

—— 下山遺跡II 1985

—— 嘉留多遺跡II 1985

世田谷区教育委員会 中野田遺跡・松原羽根木通遺跡他 (世田谷区遺跡調査報告6) 1985

—— 大蔵遺跡III 1985

—— 上之台遺跡III・向野田遺跡 1985

元八王子池の下遺跡調査団

八王子市元八王子池の下遺跡発掘調査報告書 1983

〔愛知県〕

日進町教育委員会	愛知県日進町折戸80号窯発掘調査報告書	1978
—	愛知県日進町株山地区埋蔵文化財発掘調査報告書	1984

〔静岡県〕

建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・袋井市教育委員会	坂尻遺跡第1次調査（一般国道1号袋井バイパス〈袋井地区〉埋蔵文化財発掘調査報告書）	1981
------------------------------	---	------

〔新潟県〕

三条市教育委員会	新潟県三条市保内三王山古墳群 一測量・発掘調査報告書一	1989
----------	-----------------------------	------

〔富山県〕

入善町教育委員会	じょうべのま遺跡発掘調査概報（8）	1985
—	じょうべのま遺跡 一C・K地区の調査一	1985
立山町教育委員会・立山町婦人ボランティア養成講座	立山町の石造物（第一集）	1989
立山町教育委員会	富山県立山町総合公園内野沢狐幅遺跡発掘調査概報	1985
富山大学人文学部考古学研究室・立山町教育委員会	立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅰ 1985年度 （立山町文化財調査報告書第1冊）	1986
—	立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ 1986年度 （立山町文化財調査報告書第2冊）	1987
立山町教育委員会	辻遺跡・浦田遺跡発掘調査概要（立山町文化財調査報告書第3冊）	1987
富山大学人文学部考古学研究室・立山町教育委員会	立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ 1987年度 （立山町文化財調査報告書第5冊）	1988
立山町教育委員会	浦田遺跡 一第2次発掘調査報告一（立山町文化財調査報告書第6冊）	1988
—	立山カントリークラブ増設工事地内遺跡群発掘調査概要 （立山町文化財調査報告書第7冊）	1988
立山町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室	立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ 付：稚児塚古墳測量調査成果の考察 東大寺領大荊荘域分布調査成果の考察 1988年度 （立山町文化財調査報告書第8冊）	1989
立山町教育委員会	吉峰遺跡 一第6次発掘調査概要一（立山町文化財調査報告書第9冊）	1989
富山県教育委員会	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要	1984
—	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第7次緊急発掘調査概要	1985
—	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要 一小杉丸山遺跡一	1986
—	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要 一No.18遺跡B地区・No.19遺跡一	1986
富山県教育委員会	小杉丸山遺跡隣接地区発掘調査概要	1986
—	昭和60年度富山県埋蔵文化財調査一覧	1986
—	富山県埋蔵文化財センター10年の歩み	1987
富山県埋蔵文化財センター		

	富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第9次緊急発掘調査概要	
	—No.19遺跡—	1989
—	東海北陸自動車道遺跡試掘調査報告 —福光町編—	1989
—	三谷遺跡・一ツ山古墳群	1989
—	都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2)	
	南太閤山I遺跡・南太閤山II遺跡	1984
富山県教育委員会	都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(3)	
	南太閤山I遺跡	1985
—	都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(4)	
	南太閤山I遺跡	1986
—	都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(5)	
	黒河尺目遺跡	1987
富山県埋蔵文化財センター		
	都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(6)	
	黒河尺目遺跡	1988
富山県教育委員会	北陸自動車道遺跡調査報告 —立山町木製品・総括編— 石坂助地沢遺跡・	
	石坂助地沢II遺跡・白岩古高遺跡・辻坂の上遺跡・若宮A遺跡・若宮B遺跡	1984
—	北陸自動車道遺跡調査報告 —朝日町編— 道下遺跡	1984
—	北陸自動車道遺跡調査報告 —朝日町編2— 境A遺跡・馬場山D遺跡・	
	馬場山E遺跡・馬場山F遺跡・馬場山G遺跡・馬場山H遺跡	1985
—	北陸自動車道遺跡調査報告 —朝日町編3— 馬場山D遺跡・馬場山G遺跡・	
	馬場山H遺跡	1987
—	北陸自動車道遺跡調査報告 —朝日町編4— 境A遺跡	1989
—	北陸自動車道遺跡調査報告 —朝日町編5— 境A遺跡石器編	1990
—	昭和58年度富山県埋蔵文化財調査一覧	1984
—	昭和59年度富山県埋蔵文化財調査一覧	1985
—	昭和61年度富山県埋蔵文化財調査一覧	1987
富山県埋蔵文化財センター		
	富山県埋蔵文化財センター年報 昭和62年度	1988
—	富山県埋蔵文化財センター年報 昭和63年度	1989
—	富山県埋蔵文化財センター年報 平成元年度	1990
—	栗山楮原遺跡・南中田A遺跡・任海鎌倉遺跡・南中田C遺跡	
	(富山県総合運動公園内遺跡群発掘調査概要I)	1990
財富山県文化振興財団		
	埋蔵文化財年報(1)	1990
【石川県】		
加賀市教育委員会	石川県加賀市宮地向山遺跡	1990
能登ダイヤモンドゴルフ場(予定地)内埋蔵文化財調査委員会		
	富来町福浦港ムカイヘラソ遺跡・アワガタニ遺跡発掘調査報告	1984
—	富来町福浦港ヘラソ遺跡発掘調査報告I —縄文前期編—	1987
【福井県】		
武生市教育委員会	高森遺跡I (武生市埋蔵文化財調査報告II)	1986
—	愛宕山遺跡群I (武生市埋蔵文化財調査報告III)	1987

——	王子保窠群第1次発掘調査概要報告	(武生市埋蔵文化財調査報告IV)	……………	1987
——	小丸城跡	(武生市埋蔵文化財調査報告V)	……………	1987
——	新町遺跡第1次発掘調査概要報告書	(武生市埋蔵文化財調査報告VI)	……………	1987
——	王子保窠跡群II	(武生市埋蔵文化財調査報告VII)	……………	1988
——	武生市埋蔵文化財詳細分布調査報告書I	(武生市埋蔵文化財調査報告VIII)	……………	1988

[三重県]

池田町教育委員会	雨乞塚2号墳発掘調査報告書	……………	1989
----------	---------------	-------	------

[奈良県]

河内城・満久谷遺跡調査会・奈良大学考古学研究室	満久谷遺跡 一兵庫県加西市・加西カントリー倶楽部用地内遺跡の調査— (奈良大学考古学研究室調査報告書第13集)	……………	1989
菅原遺跡調査会・奈良大学考古学研究室	菅原遺跡 一平城京西方丘陵基壇建物跡の発掘調査— (奈良大学平城京発掘調査報告書第1集)	……………	1982
奈良県教育委員会	平城京左京四条二坊一坪	……………	1987

[橿原考古学研究所]

川西町三宅町式下中学校組合教育委員会	三宅町宝院遺跡発掘調査報告書 一式下中学校体育館建設事前調査—	……………	1990
橿原考古学研究所	橿原市沼山古墳・益田池堤 (奈良県文化財調査報告書第48集)	……………	1985
——	生駒郡斑鳩町西里遺跡 (奈良県文化財調査報告書第50集)	……………	1986
——	平城京左京三条四坊十二坪発掘調査報告 (奈良県文化財調査報告書第52集)	……………	1987
——	橿原市小槻遺跡 (奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第50冊)	……………	1986
——	榛原町下井足遺跡群 (奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第52冊)	……………	1987
——	榛原町野山遺跡群II (奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第59冊)	……………	1989
——	橿原考古学研究所年報11 一昭和59年度 (1984) 一	……………	1985
——	橿原考古学研究所年報13 一昭和61年度 (1986) 一	……………	1987
——	橿原考古学研究所紀要考古学論攷 第12冊	……………	1987
——	橿原考古学研究所紀要考古学論攷 第13冊	……………	1988
——	奈良県遺跡調査概報 (第一分冊) 1983年度	……………	1984
——	奈良県遺跡調査概報 (第二分冊) 1983年度	……………	1984
——	奈良県遺跡調査概報 (第一分冊) 1985年度	……………	1986
——	奈良県遺跡調査概報 (第二分冊) 1985年度	……………	1986
——	奈良県遺跡調査概報 (第一分冊) 1986年度	……………	1989
——	奈良県遺跡調査概報 (第二分冊) 1986年度	……………	1989
——	榛原町石田1号墳 一(付) 榛原町石田鳥羽遺跡の調査 榛原町栗谷採集の須恵器 奈良県出土のミニチュア炊飯具— (奈良県文化財調査報告書第44集)	……………	1985
——	大和郡山市松尾寺 (奈良県文化財調査報告書第53集)	……………	1987
高取町教育委員会	市尾・新淵古墳群発掘調査報告 一付 寺崎西辰己遺跡発掘調査報告— (高取町文化財報告第7冊)	……………	1988
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	大和を掘る 一1988年度発掘調査速報展IX—	……………	1989
——	大和考古資料目録 一字陀の縄文土器と石器— 第14集	……………	1987

山添村教育委員会	奈良県山辺郡山添村大川遺跡 ―縄文時代早期遺跡の発掘調査報告書―	1989
[大阪府]		
雪野山古墳発掘調査団	雪野山古墳 ―第1次発掘調査概報―	1990
叻枚方市文化財研究調査会	図録 枚方市の遺跡	1988
[岡山県]		
瀬戸内考古学研究所	播磨江ノ上経塚発掘調査報告書 (瀬戸内考古学研究所調査報告第1輯)	1988
[香川県]		
本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報 (VI) ―初田遺跡・ヤケヤマ遺跡・大浦浜遺跡・長崎通り遺跡・長崎古墳―	1983
[愛媛県]		
長尾町教育委員会	椋の木古墳・大石北谷古墳 調査報告書	1989
[福岡県]		
宗像市教育委員会	宗像大穂町町口 I (宗像市文化財調査報告書第13集)	1983
――	宗像朝町山ノ口 I (宗像市文化財調査報告書第14集)	1984
――	宗像武丸皆真庵 (宗像市文化財調査報告書第15集)	1988
――	宗像浦谷古墳群 II (宗像市文化財調査報告書第16集)	1988
――	宗像武丸原 ―福岡県宗像市大丸字武丸字原所在遺跡の調査― (宗像市文化財調査報告書第17集)	1988
――	久原遺跡 ―概報古代宗像をさぐる― (宗像市文化財調査報告書第19集)	1988
――	宗像武丸町添遺跡 (宗像市文化財調査報告書第20集)	1989
――	東郷高塚 I ―福岡県宗像市日の里所在前方後円墳の調査報告― (宗像市文化財調査報告書第21集)	1989
――	宗像考古資料展 ―沖ノ島祭祀を支えた古代むなかた族―	1988
[大分県]		
大分県教育委員会	下郡桑苗遺跡 ―七歩川河川改修工事に伴う発掘調査報告書― (大分県文化財調査報告書第80輯)	1989
――	昭和63年度大分県内遺跡詳細分布調査概報 8 ―仮宮遺跡・長野前遺跡・ カチヤヅノ遺跡・吉松遺跡D地区・塩屋遺跡・上田ヶ森遺跡・喜福寺遺跡・ 下堀田遺跡・鴨川遺跡・小迫辻原遺跡・綱井下平遺跡―	1989
[熊本県]		
熊本県文化財保護協会	七ツ江カキワラ貝塚・竹の下貝塚 (熊本県文化財調査報告第79集)	1986
熊本県教育委員会	大丸・藤ノ迫遺跡 ―九州縦貫自動車道 (八代～人吉) 建設に伴う埋蔵文化財調査― (熊本県文化財調査報告第80集)	1986

[大学埋文関係・大学考古学研究室]

北海道大学農学部附属演習林	北大演習林80年	1981
北海道大学文学部附属北方文化研究施設	北方文化研究第17号	1985
——	北方文化研究第18号	1987
——	北方文化研究第19号	1988
——	北方文化研究第20号	1989
札幌大学	札幌大学女子短期大学部紀要第9号	1987
弘前大学考古学研究会	弘前大学考古学研究第2号	1983
東北学院大学東北文化研究所	北方日本海文化の研究 (東北学院大学東北文化研究所紀要第16号)	1984
東北大学文学部考古学研究室	考古学資料集2 IWATO	1978
——	考古学資料集4 MOSANRU	1982
——	東北大学考古学研究報告1	1985
東北大学埋蔵文化財調査委員会	東北大学埋蔵文化財調査年報1	1985
——	東北大学埋蔵文化財調査年報2	1986
——	東北大学埋蔵文化財調査年報3	1990
宇都宮大学考古学研究会	峰考古 —宇都宮大学考古学研究会会誌第3号—	1981
——	峰考古 —宇都宮大学考古学研究会会誌第4号—	1983
東京大学文学部	栄浦第一遺跡	1985
法政大学文学部考古学研究室	福島県双葉郡浪江町本屋敷古墳群発掘調査概報3	1984
法政大学	法政大学多摩校地遺跡群I —A地区—	1986
——	法政大学多摩校地遺跡群II —G地区—	1986
——	法政大学多摩校地遺跡群III —C・R地区—	1988
立正大学文学部考古学研究室	考古学研究室彙報第23号	1986
——	考古学研究室彙報第24号	1988
立正大学文学部考古学研究室	武蔵・熊ヶ谷東遺跡	1986
立正大学熊谷校地遺跡調査室	遺跡調査室年報IV —昭和58年度～昭和60年度—	1986
立正大学文学部考古学研究室	江戸・仙台坂遺跡(I) —仙台藩主松平(伊達)陸奥守下屋敷における味噌 醸造所跡の第1次調査—	1988
信州大学	柄原岩陰遺跡発掘調査報告書 昭和58年度	1984
金沢大学文学部考古学研究室	金沢城の発掘—藤右衛門丸北側法面裾部発掘報告— (『金沢大学日本海域研究所報告』第18号別刷)	1986

金沢大学文学部考古学研究室		
金大考古第14号	1987
—— 金大考古第15号	1988
—— 金大考古第16号	1989
—— 金大考古第17号	1989
—— 金大考古第18号	1990
金沢大学総合移転実施特別委員会・遺跡調査委員会		
角間 —金沢大学総合移転用地内埋蔵文化財調査報告—	1989
和歌山県教育委員会・和歌山大学		
和歌山大学移転統合地発掘調査報告書	1983
奈良大学文学部文化財学科		
文化財学報第4集	1986
—— 文化財学報第5集	1987
—— 文化財学報第6集	1988
奈良教育大学古文化財教育研究室		
古文化財教育研究報告第10号	1981
京都大学文学部考古学研究室		
丹波周山窯址	1982
京都大学埋蔵文化財研究センター		
京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和59年度	1987
—— 京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和60年度	1987
—— 京都大学構内遺跡調査研究年報 1987年度	1990
同志社大学考古学研究室・明石市教育委員会		
明石市域の遺跡詳細分布調査（Ⅰ） —1984・1985年度の調査—	1987
同志社大学校地学術調査委員会		
公家屋敷二条家東辺地点の調査 —同志社同窓会館・幼稚園新築に伴う調査—		
(同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.20)	1988
—— 大本山相国寺境内の発掘調査Ⅱ (同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.21)	1988
—— 同志社大学徳照館地点・新島会館地点の発掘調査		
(同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.22)	1990
同志社大学文学部文化学科		
園部垣内古墳 (同志社大学文学部考古学調査報告第6冊)	1990
—— 伊木力遺跡 —長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地遺跡の調査—		
(同志社大学文学部考古学調査報告第7冊)	1990
大阪大学南原古墳調査団		
長法寺南原古墳	1983
大阪大学		
待兼山遺跡 —大阪大学待兼山遺跡発掘調査団編—	1984
大阪大学南原古墳調査団		
長法寺南原古墳Ⅲ	1985
大阪大学文学部国史研究室		
竪穴式石室の地域性の研究	1986
大阪大学鳥居前古墳調査団		
鳥居前古墳	1987
大阪大学埋蔵文化財調査委員会		
待兼山遺跡Ⅱ	1988

大阪大学文学部考古学研究室		
	鳥居前古墳 —総括編—	1990
	—— 日本古代葬制の考古学的研究 —とくに埋葬姿勢と葬送儀礼との関わり—	1990
大阪大学南原古墳調査団		
	長法寺南原古墳IV	1990
関西大学文学部考古学研究室		
	関西大学考古学研究紀要 5	1987
岡山大学埋蔵文化財調査室		
	岡山大学津島北地区小橋法目黒遺跡 (AW14区) の発掘調査 (岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集)	1985
	—— 岡山大学津島地区遺跡群の調査II (農学部構内BH13区他) (岡山大学構内遺跡発掘調査報告第2冊)	1986
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報1 昭和58年度	1985
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報2 昭和59年度	1985
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター		
	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989
	—— 岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990
	—— 鹿田遺跡I —医学部附属病院外来診療棟改築およびNMR—CT室新築に伴う 発掘調査— (岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊)	1988
	—— 鹿田遺跡II —医療技術短期大学部校舎新営に伴う発掘調査— (岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊)	1990
広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会		
	広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報VI	1988
	—— 広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報VII	1989
	—— 広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報VIII	1990
順正短期大学運動場建設事業埋蔵文化財調査委員会		
	備中松山城関連遺跡 —順正短期大学運動場建設に伴う発掘調査—	1986
山口大学埋蔵文化財資料館		
	山口大学構内遺跡調査研究年報II	1985
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報III	1985
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報IV	1985
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報V	1986
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報VI	1987
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報VII	1988
	—— 山口大学構内遺跡調査研究年報VIII	1990
愛媛大学法文学部考古学研究室		
	三間高校校庭遺跡の調査 (『三間町三間地区遺跡詳細分布調査報告書』1989 3月抜刷)	1989
愛媛大学埋蔵文化財調査室		
	鷹子・樽味遺跡の調査 (愛媛大学埋蔵文化財調査報告I)	1989
愛媛大学法文学部考古学研究室・愛媛大学埋蔵文化財調査室		

文京遺跡第8・9・11次調査 —文京遺跡における縄文時代遺跡の調査—

(愛媛大学埋蔵文化財調査報告II) 1990

[英文報告書]

HIROAKI OKADA 他	THE HOT SPRINGS VILLAGE SITE 2	1976
—	THE HOT SPRINGS VILLAGE SITE 3	1979
—	THE HOT SPRINGS VILLAGE SITE 4	N, D,
—	THE HOT SPRINGS VILLAGE SITE 5	1986
—	The Qaluyaarmiut	1982

信州大学人文学部比較文化論研究室

MTONGWE 1986

[道内博物館その他]

北海道開拓記念館	民族調査報告書 資料編I (北海道開拓記念館調査報告第2号)	1973
—	民族調査報告書 資料編II (北海道開拓記念館調査報告第5号)	1973
—	民族調査報告書 資料編III (北海道開拓記念館調査報告第8号)	1975
—	野幌丘陵とその周辺の自然と歴史 (北海道開拓記念館研究報告第6号)	1981
—	二ツ岩 (北海道開拓記念館研究報告第7号)	1982
—	高木1遺跡 (北海道開拓記念館研究報告第9号)	1989
—	北海道開拓記念館調査報告第4号～第29号 (欠5・7・8・26号)	1973-1990
—	北海道開拓記念館研究年報第1号～第18号 (欠15号)	1972-1990
—	ナウマン象化石発掘調査報告書	1971
—	札苺 —北海道上磯郡木古内町における縄文時代晩期土壌墓の調査—	1976

名寄市郷土資料室

名寄市郷土資料報告第4集 1989

紋別市教育委員会・紋別郷土研究会

	もうべっと7	1976
—	もうべっと13	1982
—	もうべっと14	1983

利尻町立博物館

	利尻町立博物館年報第3集	1984
—	利尻町立博物館年報第7集	1988
—	利尻町立博物館年報第8集	1989

釧路市立博物館

	釧路市立博物館紀要第10輯	1985
—	釧路市立博物館紀要第11輯	1986
—	釧路市立博物館紀要第12輯	1987
—	釧路市立博物館紀要第14輯	1989
—	釧路市立博物館紀要第15輯	1990

根室市博物館開設準備室

	根室市博物館開設準備室紀要第2号	1988
—	根室市博物館開設準備室紀要第3号	1989
—	根室市博物館開設準備室紀要第4号	1990

根室市教育委員会

根室市の自然と文化財 1987

浦幌町郷土博物館

	浦幌町郷土博物館報告第27号	1986
—	浦幌町郷土博物館報告第28号	1986
—	浦幌町郷土博物館報告第29号	1987
—	浦幌町郷土博物館報告第30号	1987

帯広百年記念館	帯広百年記念館紀要第1号	1983
——	帯広百年記念館紀要第2号	1984
——	帯広百年記念館紀要第4号	1986
——	帯広百年記念館紀要第7号	1989
——	帯広百年記念館紀要第8号	1990
苫小牧市博物館	年報 昭和60年度版	1985
新冠町教育委員会	アイヌ民俗文化調査報告(Ⅰ) (新冠町郷土資料館調査報告書1)	1989
北海道第四紀研究所	西股 一函館市宇紅葉山西股遺跡発掘調査報告書一	1974

[道外博物館・美術館]

八戸市博物館	図録青森県の貝塚	1988
——	八戸市博物館研究紀要第1号	1985
——	八戸市博物館研究紀要第2号	1986
——	八戸市博物館研究紀要第3号	1987
——	弥生時代 一米作りの始まる頃一	1986
——	縄文の美 一是川中居遺跡出土品図録土器編一 (目で見ると八戸の歴史2)	1985
——	縄文の美 一是川中居遺跡出土品図録第2集一 (目で見ると八戸の歴史5)	1988
——	掘りおこされた南部氏の城 根城 (目で見ると八戸の歴史6)	1989
——	縄文時代の馬淵川	1985
東北歴史資料館	東北歴史資料館研究紀要第12巻	1986
——	東北歴史資料館研究紀要第13巻	1987
——	東北歴史資料館研究紀要第14巻	1988
——	里浜貝塚Ⅰ 一宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査・研究Ⅰ一 (東北歴史資料館資料集5)	1982
——	里浜貝塚Ⅱ 一宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査・研究Ⅱ一 (東北歴史資料館資料集7)	1983
——	里浜貝塚Ⅲ 一宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査・研究Ⅲ一 (東北歴史資料館資料集9)	1984
——	里浜貝塚Ⅶ 一宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑北地点の調査一 (東北歴史資料館資料集22)	1988
——	宮城県の貝塚 (東北歴史資料館資料集25)	1989
東北歴史資料館・石器文化談話会	馬場壇A遺跡Ⅲ 一前期旧石器時代の研究一 (東北歴史資料館資料集26)	1989
群馬県立歴史博物館	群馬の古鏡	1980
——	新発見の考古資料 一発掘された古代の水田一	1980
群馬県立歴史博物館	群馬県立歴史博物館紀要第2号	1981
——	群馬県立歴史博物館紀要第3号	1982
——	群馬県立歴史博物館紀要第4号	1983
——	群馬県立歴史博物館紀要第6号	1985
——	群馬県立歴史博物館紀要第8号	1987
——	群馬県立歴史博物館年報第5号 昭和58年度版	1984
——	群馬県立歴史博物館年報第6号 昭和59年度版	1985
——	群馬県立歴史博物館年報第9号 昭和62年度版	1989
——	群馬県立歴史博物館調査報告書第1号 昭和59年度	1985

——	群馬県立歴史博物館調査報告書第3号 昭和61年度	1987
国立民族学博物館	国立民族学博物館展示案内	1986
岡山市立オリエント美術館		
	岡山市立オリエント美術館研究紀要1	1981
——	岡山市立オリエント美術館研究紀要3	1983
——	岡山市立オリエント美術館研究紀要4	1985
——	岡山市立オリエント美術館研究紀要5	1986
——	岡山市立オリエント美術館研究紀要8	1988
——	岡山市立オリエント美術館研究紀要9	1989
[抜刷・その他]		
梅原達治	北海道における農耕の起源(予報) 一文部省科学研究費による	1982
大参義一・佐々木明	栃原岩陰遺跡の考古学的概観 (『信州大学人文学部人文科学論集』第20号別刷)	1986
——	縄文時代の老いとその意味 —縄文人口論と長野県南佐久郡北相木村栃原岩陰遺跡— (『信州大学人文学部「老いとその意味」<特定研究報告書>』別刷)	1987
西野吉幸	武生市杉町遺跡の採集遺物について (『福井考古学会会報』第18号抜刷)	1987
平口哲夫	骨角牙器 (石川県能都町『真脇遺跡』別刷)	1986
——	富山湾沿岸における縄文時代のイルカ捕獲活動 (『大境』第10号抜刷)	1986
——	北陸の考古学II 縄文時代のイルカ捕獲活動 (『石川考古学研究会会誌』第32号別刷)	1989
——	イルカの捕獲から廃棄まで (石川県能都町『真脇遺跡』別刷)	1989
古川知明・石原正敏	アメリカ式石鏃に関する一考察 (『新潟市文化財調査報告書 六地山遺跡 —1982年発掘調査を中心に—』別刷)	1986
北陸旧石器文化研究会・近畿旧石器交流会	日本海地域における旧石器時代の東西交流 —国府系・立野ヶ原系石器群をめぐる 諸問題—発表要旨	1986
松井章	古代日本海地方と「サケ・マス論」 (『季刊考古学』第15号複写)	1986
日本文化財科学会	日本文化財科学会大会研究発表要旨	1987
ジャパン通信社	月刊文化財発掘・出土情報 1983・1 1983・7～1991・3 別冊索引2・3・4・5・7・8	

あしがき

平成2年度は、幸運にも大型遺跡に遭遇しないで済んだ。また、今年度からの基本的な方針として、もし遺跡が確認されても、多少の工事変更でその地点が残される場合には、出来るだけ破壊を避ける方針を貫いた。工事の範囲が狭く部分的で、かつ掘削深度が浅い場合にはこうした方針が有効である。これまで北海道大学の農場敷地であった北26条西10丁目を含む通称タコの頭地区は、札幌市などに売却され、札幌市の埋蔵文化財センターの手によって本年度から行政発掘がなされている。すでに擦文時代の住居群が2層にわたって発

見され、良好な資料が得られている。札幌団地構内で発見されている同時期の資料を解析するためにも重要なデータとなるものが多く、今後の経過を大いに期待して注目したい。

調査室に関連するセクションの人々の異動が発表されている。本部施設部の施設部長地引宏氏が公立学校共済組合本部の技監に、同企画課長山路俊雄氏は群馬大学の施設部長として赴任されることとなった。御活躍と御多幸をお祈りしたいと思う。

平成3年3月末日 吉崎 昌一

平成2年度

北海道大学埋蔵文化財プロジェクト委員構成

朝日田 康司 (農学部 家畜飼養学講座 教授)

石 本 隼利 (理学部 生物化学講座 助教授)

羽田野 正隆 (文学部 基礎文化論講座 教授)

林 謙作 (文学部 北方文化研究施設 助教授)

吉 崎 昌一 (文学部 基礎文化論講座 助教授) (主任)

北海道大学埋蔵文化財調査室 (責任者 吉崎昌一)

北海道札幌市北海道大学内 (施設部気付)

電話 011-716-2111 内線 2671, 3548

(FAX 011-758-7531 人類学吉崎研究室あて)

北大構内の遺跡 9

平成2年度（1990年度）

1991年発行

発行所 北海道大学（埋蔵文化財調査室）
札幌市北区北8条西5丁目

編集者 吉崎昌一

印刷所 (株)中西印刷

HOKKAIDO UNIVERSITY CAMPUS SITES/1991

北大構内の遺跡

9

北海道大学